

平成22年度研究・教育活動報告

【人間文化科】

Mark Irwin

(1) 研究成果

発表：2010年5月 Irwin, Mark. Mora Splitting in Loanword Compound Clipping. 東京音韻論研究会, 東京大学.

書評：2010年9月 Irwin, Mark. 'Japanese Linguistics: An Introduction' (Yamaguchi, Continuum, 2007)' eLanguage.

2011年1月 Irwin, Mark. 'The Linguistics of Football' (Pavric et al., Narr Francke Attempto Verlag, 2008)' The Linguist List 22 : 527.

論文：2011年2月 Irwin, Mark. Mora Obstruent Epenthesis in Loanword Adaptation. 山形大学紀要 (人文科学) 17: 2, 53-70.

論文：2011年3月 Irwin, Mark. Japanese Loanword Orthography From 1955. 山形大学人文学部研究年報 8 : 39-57.

(2) 教育, 地域連携等の活動

(担当授業名)

言語学演習, 英語コミュニケーション上級, 英語コミュニケーション中級, 英語C

相沢 直樹

(2) 教育, 地域連携等の活動

平成22年度の授業：文化交流史講義 (前期), ロシア文化論 (後期), ロシア文化講読 (前期), ロシア語 I・II

浅野 明

(1) 研究成果

- ・監修：クリステル・ヨルゲンセン他/竹内喜・徳永優子訳『戦闘技術の歴史3 近世編 AD1500 - AD1763』(創元社, 2010年10月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・担当授業：西洋中世の歴史と社会 (歴史学), 西洋史概論 (一), 西洋史講義 (一), 西洋史演習 (一), 西洋史講読 (一)
- ・出張講義：山形県立南陽高等学校 (山形県南陽市, 7月1日)

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

『戦闘技術の歴史 3』は、2009 年に監修をおこなった『中世編』に次ぐもので、やはりわが国では類書がほとんどない分野である。高等学校の出張講義については、「歴史学（西洋史）と私たち—多様な文化と刻まれた記憶—」と題して、前半では、世界の多様な食文化の歴史について、また後半では戦争の記憶について、具体例をあげながら解説した。

芦立 一郎

• 著書論文 なし

• 教育，地域連携等の活動

アジア文化概論 アジア文化論演習 中国文学講義 中国語ⅠⅡ

NHK 文化講座講師

* 唐宋の詩歌，愛情表現に関係する語彙の様相と構造について調査研究中である。

阿部 宏慈

(1) 研究成果

1) 論文

阿部宏慈「ドキュメンタリー映画における〈アクチュアル〉の問題に関する一試論」山形大学人文学部研究年報 第8号（平成23年3月）pp.83 - 111.

阿部宏慈「声とテキスト」(Nord - Est, 日本フランス語フランス文学会東北支部会報[Web版] No. 3)

2) 口頭発表

阿部宏慈「メディア化された身体のカロスオーバー」(シンポジウム「映画は今?」)平成22年度日本フランス語フランス文学会東北支部大会(於:秋田大学,平成22年11月13日)

(2) 教育，地域連携等の活動

1) 教育

基盤教育共通科目コミュニケーション・スキル2（フランス語）を担当した。また、欧米文化論専修ならびに比較文化・表象文化論専修の開講科目を担当し、両コースの卒業論文指導にあたった。

2) 地域連携活動

山形国際ドキュメンタリー映画祭理事として、映画祭準備年の活動に携わった。

山形新聞に「偏愛映画」のコラム等を執筆した。

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究については、ドキュメンタリー映画を中心とする視覚表象の問題に関して、科学研究費の助成を受けておこなった成果を公表した。また、研究分担者として参加している「声とテキスト」の研究について、前年に実施したシンポジウムの記録を発表した。さらに、2月にはフランスに赴き、フランス国立図書館において、特にジャン・コクトーとジャン・デボルドなど

に関する資料を調査してきた。その成果は、平成23年度中に論文として公表する予定である。

教育活動に関しては、基盤教育が発足し、その共通科目としての初修外国語を担当した。学生たちもまじめで熱心な学生が多く、楽しみながら学ぶことができた。学部のフランス文化論は、ショパン生誕200年を受けて、ショパンを狂言回しに「七月王政のパリ」という主題で講義をおこなった。比較文化・表象文化論関連の授業では、「表象文化演習」を担当した。指導した卒業論文のテーマは、1970年代のフォークソングの研究や2000年代のインディーズロックの研究といったポピュラーミュージック関連から、『赤毛のアン』の世界の研究、日本映画における少女表象と多岐にわたった。

新宮 学

(1) 研究成果等

論文：「中国近世における羅城—明代南京の京城と外郭城の場合—」橋本義則編

『東アジア都城の比較研究』3-22頁 京都大学学術出版会 2011年2月

論文：「北京城と葬地—明王朝の場合—」同書141-164頁

研究ノート：「明清北京城の禁苑」同書370-373頁

研究ノート：「明嘉靖年間における北京天壇の成立と都城空間の変容」同書395-397頁

海外調査：2010年8月17～26日 韓国内の新羅・高麗・李朝の副都・王都の調査

海外調査：2010年8月29日～9月7日 モンゴル都城調査（ウランバートル・ハラホリン等）

国際会議報告：「中国近世的羅城—以明代南京の京城和外郭城為例」2010年10月29日 中国首届世界城市史論壇（フォーラム）（中国杭州師範大学）

(2) 教育、地域貢献等の活動

〔教育〕担当授業：〔学部〕東洋史概論（一）、東洋史講義（一）、東洋史演習（一）、東洋史講読（一）、文化環境学（一）、北京の歴史（歴史学）、マルコ・ポーロの『東方見聞録』を読む（教養セミナー）、外国史概説（地域教育文化学部兼担）〔大学院〕東アジア近世史特論Ⅰ、東アジア近世史特別演習

卒業論文指導：東アジア近現代史をテーマとする学生1名

修士論文指導：台湾近現代史をテーマとする院生1名

〔地域貢献〕

- 模擬講義：福島県立原町高等学校 9月14日
- 高校訪問：仙台市内の高校4校 9月
- 教職免許状講習：高校地歴・中学社会「東アジアからみた世界史」8月6日
- 放送大学面接授業：歴史学 2月5-6日

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動では、21年度より始まった基盤研究(B)「近世東アジアの都城および都城制についての比較史的総合研究」の研究代表者として共同研究を進めた。また新たに基盤研究(A)「比較史的観点からみた日本と東アジア諸国における都城制と都城に関する総括的研究」(代表

橋本義則教授)に分担研究者として、基盤研究(B)「朝鮮史における複都・副都の位置・構造・機能に関する調査研究」(代表 田中俊明教授)に連携研究者として加わった。

池田 光則

(2) 教育, 地域貢献等の活動

(i) 担当授業

- 学部専門教育科目: 言語学概論(一), 言語学概論(二), 言語学演習, ラテン語初級
- 教養教育科目: 言語学概論(言語学), 言語学とその周辺領域(言語学), 英語
- 大学院: 言語学特論

(ii) 出張講義等: 山形県立酒田西高等学校(2010年10月14日), 石巻専修大学平成22年度教員セミナー「教養科目における大人数講義の授業実践」(2010年12月2日)

(iii) 卒業論文指導テーマ

- 日本語の語基「感」の考察—その意味, 用法の拡大について
- 狂言におけるリズムの構造について

石澤 靖典

(1) 研究成果

[著書・論文]

- 「十五世紀フィレンツェにおける都市図の展開—フランチェスコ・ロッセッリの地図制作と都市の理念—」, 『都市を描く—東西文化に見る都市と景観図—』(佐々木千佳・芳賀京子編)所収, 東北大学出版会, 2010年, 31-97頁。
- 「フランチェスコ・アルベルティーニ『彫刻・絵画に関する覚書』(一五一〇)」, 『美術史学』, 31-32号, 2011年, 153-182頁。

(2) 教育, 地域連携等の活動

- 非常勤講師: 東北学院大学(芸術論), 東北生活文化大学(美学), 宮城学院女子大学(イタリア語)
- 講演: NHKカルチャー仙台校特別公開講座「フィレンツェ・ルネッサンスの美~都市を彩った芸術家たち~」(2011年3月9日)

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

平成23年10月に本学に着任した。平成22年度は東北大学大学院文学研究科専門研究員として研究教育活動にあたった。

磯野 暢祐

(2) 教育, 地域貢献等の活動

- 基盤教育として, フランス語Ⅰ(前期)を週4コマ, フランス語Ⅱ(後期)を週4コマ, フランス語Ⅲ(前期)を週1コマ担当。
- 専門教育として, 言語学特殊講義(音声学)(前期), 言語学特殊講義(ロマンス語学)(後期),

- フランス語学演習・中級（前期）、フランス文化講読（後期）、欧米文化概論（前期）を担当。
・大学院では、音韻論特論Ⅱ（前期）を担当した。

板垣 哲夫

(1) 研究成果

「前期西田幾多郎（最初期～一九二五年三月）における内在と超越」（『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第7号，2010年10月）

「中期西田幾多郎（一九二五年四月～一九三二年一〇月）における内在と超越」（『山形大学紀要（人文科学）』第17巻第2号，2011年2月）

(2) 教育、地域連携等の活動

日本史概論（二）、日本史講義（二）、日本史演習（二）、日本史講読（二）、スタートアップセミナー（人文学部・人間文化学科）、福沢諭吉再考（歴史学）、江戸時代とは何か（教養セミナー）、教員免許状更新講習（日本歴史の前提）

伊藤 豊

(1) 研究成果

（論文）

"Fenollosa, Art Education, and the Art Industry in Meiji Japan," The International Association of Japan Studies: Newsletter, No. 7, 2011.

（学会発表）

「移民同化論の肯定的考察」、日本国際文化学会創立10周年記念特別全国大会、共通論題2：変容する国際秩序と文化の展開（2011年7月2日、名桜大学）

(2) 教育、地域連携等の活動

- ・担当授業：例年に同じ。
- ・地域連携等：（1）放送大学山形学習センターにて客員教員を務める（客員教員としての通常業務＋前後期それぞれ1回の面接授業をおこなう）。（2）岩手県立高田高校にて出張講義（2011年10月17日、講義タイトル「移民について考える」）。

伊藤 晶文

(1) 研究成果

[学術論文等]

伊藤晶文（2010）：豪雨による土砂災害防止対策を考える—鹿児島県シラス台地周辺を事例に一。季刊地理学, 62, pp. 143 - 145.

伊藤晶文・木場幸乃（2011）：鹿児島における1830年代から1850年代の気候復元。鹿児島大学研究紀要自然科学編, 62, pp. 1 - 8.

[学会発表]

伊藤晶文：大隅半島北部におけるシラス台地の開析谷の形態と分類（第2報）. 2010年5月. 2010年度東北地理学会春季学術大会.

佐々木明彦・吉田明弘・箱崎真隆・大山幹成・伊藤晶文：鳥海山七高山溶岩の下位にみられる2層の泥炭層から得られた花粉化石および木材化石. 2010年5月. 2010年度東北地理学会春季学術大会.

伊藤晶文・木場幸乃・福山愛：古日記による1830年代から1850年代の鹿児島島の気候復元. 2010年10月. 2010年度東北地理学会秋季学術大会.

小熊 正久

(1) 研究成果

- 論文：「視覚媒体としての光とその経験」（山形大学人文学部研究年報第8号，H23. 3）
- 研究発表：「映画と身体」（於ハルビン工業大学。当大学と山形大学人文学部とのシンポジウムにて，H22. 9）

(2) 教育，地域連携等の活動

- 上記シンポジウムに参加。
- 出張講義：新潟県佐渡高校（H22. 8.20）。長野県木曾青峰高校（H23. 3. 7）。
- 担当授業：基幹科目（西洋の自然観と人間観），共生人間学一（自然と環境の思想），スタートアップセミナー，哲学演習二〔前，後〕，西洋哲学史（科学革命～ライプニッツ），人間文化入門総合講義（実存について），西洋哲学講読，ギリシア語〔前，後〕，基盤教育（人間と世界），哲学講義一（他者の問題），哲学演習二（Heidegger），哲学基礎。
- 指導した卒論題目：「ハイデガーにおける現存在の実存論的分析—死の概念—」

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

平成22年度人文学部プロジェクト研究「メディアにおける画像の分析—現象学と分析哲学によるアプローチ」（小熊ほか，清塚，山田圭一，田口）として「画像」や「画像表象」の在り方を中心に共同討議を行った。今後の共同研究に活かしたい。

菊地 仁

(1) 研究成果

[論文]

- 「中世の『伊勢物語』注釈とその周辺—物語草子から近世絵画への波及—」，（『伊勢物語享受の展開（伊勢物語成立と享受2）』，pp. 51 - 70，2010年5月）

[書評]

- 「美濃部重克・美濃部智子『酒吞童子絵を読むまつろわぬものの時空』」，（『説話文学研究』4，pp. 182 - 185，2010年7月）

小熊 正久

(1) 研究成果

- 論文：「視覚媒体としての光とその経験」(山形大学人文学部研究年報第8号, H23. 3)
- 研究発表：「映画と身体」(於ハルビン工業大学。当大学と山形大学人文学部とのシンポジウムにて, H22. 9)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- 上記シンポジウムに参加。
- 出張講義：新潟県佐渡高校 (H22. 8.20)。長野県木曾青峰高校 (H23. 3. 7)。
- 担当授業：基幹科目 (西洋の自然観と人間観), 共生人間学一 (自然と環境の思想), スタートアップセミナー, 哲学演習二 [前, 後], 西洋哲学史 (科学革命～ライプニッツ), 人間文化入門総合講義 (実存について), 西洋哲学講読, ギリシア語 [前, 後], 基盤教育 (人間と世界), 哲学講義一 (他者の問題), 哲学演習二 (Heidegger), 哲学基礎。
- 指導した卒論題目：「ハイデガーにおける現存在の実存論的分析—死の概念—」

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

平成22年度人文学部プロジェクト研究「メディアにおける画像の分析—現象学と分析哲学によるアプローチ」(小熊ほか, 清塚, 山田圭一, 田口)として「画像」や「画像表象」の在り方を中心に共同討議を行った。今後の共同研究に活かしたい。

〔目録〕

- 「西行文献目録（地方文献版）山形県」（『西行学』 1, pp.188 - 193, 2010年7月）

(2) 教育, 地域連携などの活動

〔2010年度の担当授業〕

• 前期

人間を考える（基盤教育） /

スタートアップセミナー・日本文化演習・日本古典文学講義 /

日本古代中世文化特論・アジア文化特別研究（大学院）

• 後期

山形に学ぶ（基盤教育） /

文化構造学・日本文化概論・日本文学演習 /

日本古代中世文化特別演習・アジア文化特別研究（大学院）

〔出張講義〕

- 宮城県石巻高等学校・大学模擬講義（2010年10月21日）
- 栃木県立宇都宮南高等学校・進路学習講座（2010年10月28日）

〔地域連携〕

- 放送大学客員教員

清塚 邦彦

(1) 研究成果

(a) 研究業績

論文

「フィクションの統語論をめぐって」『哲学の探究（哲学若手研究者フォーラム）』第37号, 5 - 17頁, 2010年6月。

書評

「川野洋『ネットワーク美学の誕生：「下からの総合」の世界に向けて』」『科学哲学（日本科学哲学会）』第43巻第2号, 115 - 118頁, 2010年12月。

(b) その他の研究活動

日本科学哲学会 『科学哲学』編集委員

科学基礎論学会 『科学基礎論研究』査読委員

(2) 教育, 地域連携等の活動

(a) 担当授業

（教養教育）

「哲学ってどんなこと？（哲学）」（前・後期）

（専門教育）

「哲学基礎」（後期）, 「人間情報科学基礎」（後期）, 「論理学概論」（前期）,

「情報記号論」(後期), 「現代応用倫理」(後期), 「情報記号論演習」(前・後期)
(大学院)

「論理学特論」(前期), 「論理学特別演習」(後期)

(b) 講演会ほか

第8回 新潟哲学思想セミナー (シンポジウム提題「フィクションとリアリティ」) (2011年
3月, 新潟大学人文学部にて)

坂井 正人

(1) 研究成果

[口頭発表]

1. Estableciendo los Centros de las Organizaciones de los Paisajes en las Sociedades Andinas, 1er Encuentro Academico Internacional: Deidades, Paisaje y Astronomia en la Cosmovision Andina y Mesoamericana, Museo Nacional de Arqueología, Antropología e Historia del Perú. 2010年4月28日.
[著書・論文・エッセイなど]
1. El Templo del Sol Coricancha en Cusco y Vilcabamba (Masato Sakai), *Miradas al Tahuantinsuyo*, Fondo Editorial PUCP, pp.133 - 158.
2. Excavación en el Templete de Limoncarro, valle bajo de Jequetepeque (Masato Sakai, Juan Martínez), *Boletín de Arqueología PUCP*, Fondo Editorial PUCP, 12, pp.171 - 201.
3. *Informe Final del Proyecto de Investigación Arqueológica de las Líneas y Geoglifos de la Pampa de Nasca* (Primera Temporada) (Masato Sakai, Jorge Olano), Instituto Nacional de Cultura del Perú, pp. 1 - 149.
4. *Informe Final del Proyecto de Investigación Arqueológica de las Líneas y Geoglifos de la Pampa de Nasca* (Segunda Temporada) (Masato Sakai, Jorge Olano), Ministerio de Cultura del Perú, pp. 1 - 141.
5. 「ナスカ台地の放射状直線の制作時期をめぐって」(坂井正人, ホルヘ・オラーノ)『季刊地理学』, 62, pp.239 - 242.
6. 「ナスカの地上絵の分布と制作方法に関する予備的考察: 人工衛星画像と現地調査より」(坂井正人ほか)『可視化情報学会誌』30 (117), pp. 126 - 127.
7. 「日本の歴史教育における先コロンブス期アメリカ大陸史とよりグローバルな「真の歴史」」(青山和夫, 坂井正人, 井上幸孝, 吉田栄人, 多々良穰)『考古学研究』57, pp. 15 - 19.
8. 「先コロンブス期アメリカ大陸史に関わる世界史教科書問題」(青山和夫, 多々良穰, 坂井正人, 井上幸孝, 吉田栄人)『古代アメリカ』13, pp. 31 - 39.
9. 「ナスカ台地における放射状直線の地上絵: 2009 ~ 2010年度の現地調査より」『チャスキ』42.
10. 『世界遺産ナスカの地上絵完全ガイド』(坂井正人・監修) ダイヤモンド社, pp.1 - 128.

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]「文化人類学入門 (文化論)」, 「文化人類学・宗教史基礎」, 「比較地域生態概論」, 「文

化人類学・宗教史演習(二)],「文化人類学・宗教史実習(二)」。

[卒業論文] 11名

[地域連携]

1. 「世界遺産ナスカの地上絵と古代アンデス文明」 県立山形北高等学校, 2010年6月16日。
2. 「アンデス文明の謎と実像」 古代アメリカ学会主催・公開シンポジウム『マヤ・アンデス文明の謎と神秘のバールをはぐ』 仙台国際センター, 2010年10月3日。
3. 「ナスカ地上絵の最前線: 2010年の調査より」 東根市民立大学・タントまなべ学園思学部・テクノロジーコース, 2011年2月22日。

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

「環太平洋の環境文明史」計画研究 A03「アンデス文明の盛衰と環境に関する学際的研究」(科学研究費補助金・新学術領域研究)によって、ナスカの地上絵に関する現地調査を実施した。今年度はまず地上絵の分布に関するデータを集めた。その結果、人間の「首級」および「動物」だと思われる地上絵を発見した。また、放射状直線の中心点(ライン・センター)を新たに76点発見した。次に、地上絵付近に分布する人工遺物(8500点以上)を収集し、計測・記載・分類・写真撮影・図面化することで、人工遺物のデータベース化に努めた。なおこの現地調査は「研究活動推進のための特別免除措置」(平成22年度後期)によって可能になった。

さらに、ペルー北部高地のパコバンバ遺跡の考古学調査(科学研究費補助金・基盤研究(A)・研究代表者・国立民族学博物館教授・關雄二)に参加して、この遺跡の景観構造に関する調査を継続した。

講義と演習では、世界の諸民族に関する事例を検討することで、文化人類学の基本的な考え方、民族誌の読み方と議論の仕方について扱った。

佐藤 清人

(1) 研究成果

論文

- ・「初期日系アメリカ文学に関する考察」山形大学紀要(人文科学)第17巻第2号

(2) 教育、地域連携等の活動

教育

担当授業科目: 英語(R), 英語(C), 英米文学概論, 英米文化講読など

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

特になし

嶋田 珠巳

(1) 研究成果

[論文等]

「言語意識の問題～アイルランド英語の“Irishness”と“Bad Grammar”～」, 『東京大学言語学論集』第30号, 215 - 231頁,

What grammatical features are more marked in Hiberno - English? : a survey of speakers' awareness and its primary details, 『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第7号, 1 - 25頁.

The 16th IAWE: World Englishes Today (Conference Review), *Asian Englishes vol. 13* (2), 76 - 81頁.
[学会発表等]

「アイルランドの言語接触と二言語共存」, 日本ケルト学会東京支部研究会, 慶應義塾大学.

「アイルランド英語のアイデンティティ 文法的自律性と話者意識」, 日本英文学会第82回全国大会, 神戸大学 / 『日本英文学会第82回大会 Proceedings』, 98 - 100頁.

Hiberno - English in the context of *World Englishes*, *World Englishes 2010 (The 16th IAWE)*, サイモン・フレーザー大学, バンクーバー.

Grammatical Innovations and Contact - induced Restructuring in Hiberno-English, *Language Contact and Change - Grammatical Structure Encounters the Fluidity of Language (GFSL2010)*, ノルウェイ科学技術大学, トロンハイム.

[コラム]

英語玉手箱<アイルランド>「アットホームな食卓」, 『英語教育』6月号, 58頁.

(2) 教育, 地域連携等の活動

実践英語 III, 言語学基礎, 英語 (C) / (R) の授業を担当した。

8月21日～9月5日, ケアンズでの異文化コミュニケーション実習を担当した。

鈴木 亨

(1) 研究成果

論文

- ・「複合的変件事象の意味論に向けて一状態変化と位置変化が両立するとき」『山形大学人文学部研究年報』第8号, 19 - 37.

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・担当授業: 英語 C, 英語 R, 英語学概論 (二), 英語学演習, 英作文 (中級), 英語語法論特論, 英語語法論特別演習

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 変件事象において, 一般的な制約 (唯一経路制約) に反して1つの単文中に状態変化と位置変化が両立していると思われるいくつかの事例について分析し, そこに共通する成立条件を探った。

教育面では、専門の複数の授業で、授業時間外の課題として多読レポートを課し、多面的な英語力の養成に努めた。基盤教育の英語では、テキストの内容を復習させる小テストを毎回行い、自宅での復習学習を促した。

富田 かおる

(1) 研究成果

“Pattering of native and non-native intonations in yes/no,” *Bulletin of Yamagata University (humanities)* 17 : 2, 71 - 88.

『リスニングとスピーキングの理論と実践』大修館書店(2011年1月)(第1章第3節「発音の指導」執筆, 第4章「リスニングとスピーキングの今後の課題」共同執筆)

(2) 担当授業

英語学特殊講義, 英語 (R), 英語 (C)

(3) 平成22年度の研究・活動計画に関するコメント

言語の生成を主なテーマとし、特に発話の音響分析を基に、米国人話者の母音とイントネーションのフォルマント測定と特徴分析を行った。

中澤 信幸

(1) 研究成果

[論文]

- 「-ng 韻尾」認識の変遷と漢字音資料 —未来の中国語学習へ生かすために—, 田島毓堂編『日本語学最前線』(和泉書院), pp.665 - 684, 2010年5月
- 『日台大辞典』付載「日台字音便覧」について, 『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』7, 右 pp. 1 - 9, 2010年10月

[講演]

- 『日台大辞典』と東アジア共通漢字, 山形大学人文学部国際学術講演会「共振する東アジア2」, 2011年2月19日

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

- 学部専門科目: 日本語 (一), 日本語学概論 (二), 日本語学特殊講義, 日本語学演習, 日本語学講読, 言語学基礎, 国語の教材研究 B
- 大学院科目: 日本語史特論 I, 日本語史特別演習
- 基盤教育科目: 日本語と他の言語との共生 (文化・行動 B), 日本語の歴史 (言語学)

[地域連携]

- 『論語』を読もう3 ～公冶長・雍也・述而～, NHK文化センター山形教室講座, 2010年4月10日・5月8日・6月12日・7月10日・7月31日・9月11日

- 『論語』を読もう4 ～泰伯・子罕～, NHK 文化センター山形教室講座, 2010年10月9日・11月13日・12月11日
- Let's「論語」, かほく町民大学ひなカレッジ「こころ学」, 2010年10月13日・11月10日・12月8日
- 日本語は変わっている?, 出張講義: 宮城県小牛田農林高等学校, 7月7日

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

『日台大辞典』付載「日台字音便覧」のデータベースをもとにした、「東アジア共通漢字」発音対照一覧の作成に着手した。これに関連する研究発表や論文執筆も行った。地域連携についても『論語』に関する講座を各地で開催するなど、充実した年であった。

中村 篤志

(1) 研究成果

論文

- 「北京值班モンゴル王公の日記について」(モンゴル語) C N E A S Report, vol. 2, pp. 84 - 89, 2011年3月

辞典執筆

- 歴史学研究会編『世界史史料4 東アジア・内陸アジア・東南アジア2 10 - 18世紀』2010年, 岩波書店の二項目を分担執筆

学会・研究会発表

- 「モンゴル都城研究の諸問題——カラコルムを中心に」近世東アジア比較都城史研究会第3回研究会, 2010年6月26日(於: 山形大学人文学部)
- 「清朝宮廷儀礼におけるモンゴル王公の位置づけ」東北アジア研究センター共同研究「北アジアにおける帝国統治の遺産に関する研究」平成22年度第一回研究会, 2010年7月3日(於: 東北大学東北アジア研究センター)
- 「清朝治下モンゴルにおける兵役・賦役について」軍隊と社会の歴史研究会第28回例会, 2010年12月4日(於: 山形大学人文学部)
- 「近年のモンゴル研究の動向と日記史料の可能性について」中国社会科学院民族学与人類学研究所学術交流会, 2011年3月10日(於: 北京市中国社会科学院民族学与人類学研究所)

(2) 教育・地域貢献等の活動

[担当授業]

東洋史講義(二), 東洋史概論(二), 東洋史演習(二), 東洋史講読(二), 歴史学基礎, 文化人類学・宗教史講義(三), モンゴル・遊牧を考える(教養・歴史学), モンゴル語で読むモンゴル史(教養・歴史学)

[教育活動]

- 卒論指導: 中国近世史など2名の卒業論文を指導した。

[地域貢献活動]

- 出張講義：秋田県立横手城南高校高大連携授業「モンゴル遊牧民の生活と歴史：変容する“家族”をめぐる」(2010年7月21日)

(3) 平成21年度の研究、教育活動に関するコメント

- 新宮教授を代表とする科研費基盤研究B「近世東アジアの都城および都城制についての比較史的総合研究」のメンバーとして、モンゴル史上の都城問題について研究報告し、8月にモンゴル国における10日間の都城調査を実施した。
- 自身の科研費若手研究Bの調査として、3月に北京において史料収集などをおこない、現地研究者・協力者と情報交換をおこなった。

中村 隆

(1) 研究成果

- 論文：「博士論文報告：Dickens in the Late-Victorian Context」, 『ディケンズ・フェロウシップ年報』第33号(2010年) pp. 158 - 166
- 研究発表「博士論文報告：Dickens in the Late-Victorian Context」(学会：ディケンズ・フェロウシップ日本支部春季大会, 場所：大阪市立大学, 時：2010年6月12日(土))

(2) 教育、地域連携等の活動

基盤教育の英語(R)では、速読の基本と音読の基本を重点課題とした。英語(C)では、聞き取りと発話の反復練習、音読の基本を重点課題とした。英米文学講読では、ホガースの解説本を教材とし、正確な意味の把握のための語彙の拡大と文法の理解を重点課題とした。英文学特殊講義では、ディケンズの小説と挿絵の関係を論じた。欧米文化演習では、相沢直樹教員との共同担当の授業であったが、ユートピアをキーワードにして、活発な発表と議論があった。

目標評価委員会の入試方法検討部会委員として、短大訪問、高校訪問を受けて、意見集約などに参画した。

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

ディケンズの挿絵画家クルックシャンクの絵の背景にホガース以来の英国の諷刺画の伝統のあることを論じた。また、挿絵が小説の単なる説明ではなく、挿絵が本文と独立して意味の発信をすることが、ディケンズの文学とクルックシャンクの挿絵の関係の中で起こりえたことを解明した。

中村 唯史

(1) 研究成果

[論文]

1. トルストイ『戦争と平和』における「崇高」の問題, 山形大学人文学部研究年報, 8号, 2011年3月, 113 - 143頁

2. 境界をめぐる思考：近代ロシア文学のコーカサス・イメージトルストイ『コサック』を中心に、ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容 IV (東北学院大学オープン・リサーチ・センター), 2011年3月, 210 - 220頁

[翻訳]

ヴィクトル・ペレーヴィン『寝台特急 黄色い矢』(共訳), 群像社, 2010年12月

[書評・エッセイ等]

1. 1910 - 20年代のソ連批評理論における声とテキスト, Nord-Est: 日本フランス語フランス文学東北支部会報, 3号, 2010年6月, 3 - 6頁
2. 乗松亨平著『リアリズムの条件 ロシア近代文学の成立と植民地表象』, ロシア語ロシア文学研究(日本ロシア文学会), 42号, 2010年9月, 80 - 83頁
3. 山形新聞文化欄コラム「<ことばの杜>へ」:
「カジミール・マレーヴィチ『キュビズム, 未来主義からスプレマチズムへ』」2010年4月10日, 「石川啄木『飛行機』」同6月4日, 「レフ・トルストイ『戦争と平和』」同7月31日, 「瀬田貞二訳『三びきのやぎのがらがらどん』」同9月25日, 「岡本かの子『東海道五十三次』」同11月20日, 「1991年8月20日夜モスクワで聞いたことば」2011年1月22日

[口頭発表]

1. Before an Unknownable Current: Boris Eikhenbaum's Perception of History, ICCEES VIII World Congress, 2010年7月26 - 31日, 於スウェーデン王国ストックホルム市
2. 日本比較文学会2010年度東北大会シンポジウム「ユートピア文学はどこにあるのか」パネリスト, 2010年12月4日, 於岩手大学

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

教養教育: ロシア語Ⅰ, ロシア語Ⅱ

専門教育: 表象文化講義, 欧米文化基礎, 欧米文化概論, 欧米文化演習, ロシア語学演習, ロシア文化講読

[指導卒業論文テーマ]

「<少女雑誌>考察:なぜ<少女>は叙情画を手元に置きたかったのか」, 「他人としての分身」, 「浜田廣介論:アンデルセン童話の翻訳を中心に」, 「アバター論:ウェブ上に形成される<わたし>とは」, 「原作の変換について:パロディから二次創作まで」, 「メディアミックス研究:<消費されるギャップ>と「反発されるギャップ」」, 「少女マンガにおける視覚効果の変遷について」

[地域連携等]

- ・非常勤講師: 宮城学院女子大学 (表象文化論)
- ・北海道大学スラブ研究センター客員研究員
- ・日本ロシア文学会国際交流委員, 学会賞選考委員, 大会実行委員
- ・ロシア東欧学会編集委員
- ・日本比較文学会東北支部会役員
- ・「ロシア語ロシア文学」, 「Japanese Slavic and East European Studies」誌査読担当

• 出張講義 :

1. 山形県立山形南高等学校 「日本のマンガのしくみを考える」2010年9月15日
2. 山形県立高島高等学校「映画とアニメから見るソ連社会」2010年10月20日

• 講演 :

1. 「歴史の中のロシア・アヴエンギャルド：成立までとその時代」, 2010年4月29日, 於山形美術館ミュージアムスクール。
 2. 「境界をめぐる思考：近代ロシアのコーカサス・イメージ」, 東北学院大学オープン・リサーチ・センター公開講演会「コーカサスとヨーロッパ」, 2010年9月25日, 於東北学院大学。
 3. 「日本マンガの構造的性をめぐって：その興隆と盛衰」, 2011年1月30日, 山形市立図書館市民講座。
 4. 山形フォーラム「ロシア文学映画館シリーズ」解説：
16回『ワッサ』2010年6月25日, 17回『妖婆・死棺の呪い』同7月16日, 18回『カラマーゾフの兄弟』同8月27日, 19回『ワーニャ伯父さん』同9月24日, 20回『鏡』同10月29日, 21回『僕の村は戦場だった』同11月26日, 22回『ハムレット』同12月17日, 23回『リア王』2011年1月28日, 24回『オブローモフの生涯より』2011年2月25日。
- 山形新聞「山新文学賞」選評担当 (毎月1回)

- (3) 平成21年度の研究, 教育活動に関するコメント
特になし

西上 勝

(1) 研究成果

[論文]

「墨戯について」, 山形大学紀要 (人文科学), 第17巻第2号, pp107 - 119

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

研究科：中国中世文化論など

専門教育：中国文学概論など

基盤教育：外国語科目・中国語Ⅰなど

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

特になし。

福野 光輝

(1) 研究成果

[分担執筆]

福野光輝 (2010) . 交渉 海保博之 (編集主査) 感情と思考の科学事典, 朝倉書店, 382 - 385.

(2) 教育、地域貢献等の活動

[担当授業]

「人間の心と行動（基幹科目〔文化・行動A〕）」（前期）、「『日本人の集団主義』を再考する（教養セミナー）」（後期）、「共生人間学（一）」（前期）、「社会心理学演習」（前期・後期）、「心理学実験」（前期）、「心理学特殊実験」（前期・後期）、「人間文化入門総合講義」（前期、第4回担当）、「行動科学情報処理実習」（前期）、「心理学基礎」（後期）「社会心理学特論Ⅰ」（前期）、「社会心理学特別演習」（後期）

[卒業論文指導]

「恐怖感を伴う暴力的テレビゲームが攻撃性に及ぼす影響：ゲーム経験の有無による効果の比較」
「服装イメージが行動におよぼす効果」

「高信頼者は騙されにくいのか」

「気分と課題継続時間が発散的思考課題に及ぼす効果」

「顔と名前に付随する意味情報の相違が記憶成績に及ぼす影響」

「心的負荷条件下における自己欺瞞と対処方略の適応効果：ストループ課題を用いた状態不安の変化および課題成績の比較検証」

「アイオワギャンブル課題における直観：総計か損失回避か」

「きょうだい間の嫉妬感情に関する心理学的研究：長子・中間子・末子の感情特徴の比較」

「罪悪感と身体的同調を引き起こすか」

「英語学習に対する効力期待と結果期待のフィードバックが学習意欲の向上に及ぼす影響」

[出張講義]

福野光輝(2010) . はじめての心理学 . (米沢興譲館高等学校, 山形県米沢市, 2010年7月14日)

福野光輝(2010) . はじめての心理学 . (栃木女子高等学校, 栃木県栃木市, 2010年9月30日)

福山 泰男

(1) 研究成果

論著：「建安文学の形成と展開」（東北大学・博士学位論文，2010年12月）

学会発表：「徐淑小考—文学テキスト上の性差をめぐって」（2010年6月，第14回六朝学術学会大会）

(2) 教育、地域連携等の活動

人文学部主催の国際シンポジウム「共振する東アジア」の運営に参画し、台湾・中山大学、琉球大学等との学術・教育連携を進めた。(2011年2月)

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

研究：学位取得のため、研究成果をまとめ博士論文を東北大学に提出した。(2011年，学位取得)
その他：台湾、沖縄等と新たな連携を進めたが、今後、学部として、東アジア学術教育連携構想を企画・実行していくことが可能であれば、さらに参加していきたい。

藤澤 秀光

(2) 教育・地域連携等の活動

・担当授業名

(学部) アメリカ研究演習, アメリカ研究特殊講義, 英語 R II, 英語 R III, 欧米文化概論, 人間文化基礎演習

(大学院) 英米現代文化論特論, 英米現代文化特別演習

・地域連携活動 (ボランティア)

国際ロータリー第 2800 地区財団奨学生選考委員

国際ロータリー第 2800 地区財団ロータリー学友会代表幹事

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

- ・ユダヤ系, 日系といったアメリカの少数民族に関する小説, 演劇, 雑誌, 新聞, 広告, CM, 映画, TV 番組, 音楽, スポーツといった, 文字化, 音声化, 映像化された文化的生成物を対象にした研究を行なっています。
- ・教育活動としては, 山形県のロータリークラブの財団奨学生のアドバイザーとして奨学金申請から海外の留学先の大学, 大学院決定までの指導を行なっています。ちなみに, 本年度は米国ウイコンシン大学, オーストリアのウイーン大学, ベルギーの大学, スペインの大学に各 1 名ずつ留学できるよう指導しました。

古川 英明

(1) 研究成果

- ① I・カント (原佑訳) 『純粹理性批判 下』第 2 刷, 平凡社ライブラリー, 2010 年 4 月
- ② E・カッシーラー (森淑仁・笠原賢介訳) 『象徴形式の形而上学』法政大学出版局, 2010 年 8 月

(2) 教育・地域連携等の活動

教養教育

前期 哲学 (『弁明』を読む (I))

後期 哲学 (『弁明』を読む (II))

専門教育

前・後期 ラテン語上級 (Reading Latin, Cambridge U. P., Part One)

前期 哲学演習 (一) (キルケゴール 『イロニーの概念』)

後期 哲学演習 (一) (ヴラストス 「ソクラテースのアイロニー」)

後期 哲学講読 (M. Walser: Selbstbewusstsein und Ironie, 1. Romantische Ironie)

後期 [3 回担当] 哲学基礎 (「声とイデア説」)

(3) 「研究成果」に関するコメント

- ①-小生作成の「人名索引・事項索引」について可能なかぎり訂正と改良の手を加えた。。

- ②-この訳書は平成16年度研究活動報告に「2005年刊行予定」と記したものの。昨年8月、森、笠原両先生のご努力により日の目を見ることができた。小生は結局、「カッシーラー遺稿研究会」会員諸氏と分担し翻訳第一稿を作成したに留まる。これは研究成果の報告ではなく、6年後の経過報告です。

本多 薫

(1) 研究成果

論文

- 1) 門間政亮, 本多薫: 音楽に含まれる言語情報が文書課題の遂行に及ぼす影響—日本語歌詞と韓国語歌詞による比較—, 人間工学, 第46巻5号, p.342 - 345, 2010.10
- 2) 伊藤理絵, 本多薫: 音楽が画像の記憶再生に与える影響に関する検討, 日本生理人類学会誌, 第15巻4号, p. 1 - 7, 2010.11
- 3) 本多薫: ナスカ台地におけるラインセンター間のネットワーク, 季刊地理学, 第62巻4号, p.234 - 238, 2011. 1
- 4) 伊藤理絵, 本多薫, 渡邊洋一: 攻撃的ユーモアを笑う, 山形大学人文学部年報, 第8号, p.215 - 227, 2011. 3

学会発表

- 1) 門間政亮, 本多薫: 音楽に含まれる言語情報が文書課題の遂行に及ぼす影響に関する研究—心拍, アミラーゼを生理指標として—, 日本人間工学第51回大会講演集(北海道大学), p.376 - 377, 2010. 6
- 2) 門間政亮, 本多薫: 音楽に含まれる言語情報の無意識処理に関する検討, 日本人間工学会関東支部第40回大会講演集(東海大学), p.54 - 55, 2010.12
- 3) 本多薫: 社会ネットワークに関する基礎的検討—パルー, ナスカ台地を例として—, 日本人間工学会関東支部第40回大会講演集(東海大学), p.22 - 23, 2010.12

(2) 教育, 地域連携等の活動

授業:(教養) 情報処理;(学部) 公務員対策セミナー, 人間情報科学概論, 人間情報科学基礎, 人間情報科学演習, 人間情報科学実習, コンピュータ・ネットワーク論, 人間工学;(大学院) 人間情報科学特論, 人間情報科学特別演習, 心理・情報特別研究

卒業研究の指導(人間情報科学専修担当として指導):

- (a) 大学生の生活スタイルにおける携帯端末の占める役割に関する研究
- (b) 経路探索行動における移動プラン形成に関する研究

修士学位論文の指導

- (a) 笑いとユーモアの攻撃性に関する研究

地域貢献活動等:

- (a) 日本経営工学会東北支部 運営委員
- (b) 日本人間工学会 代議員
- (c) 日本建築学会 倫理委員会 教育・研究プログラム小委員会 委員

(d) 土木学会 地下空間研究委員会 心理小委員会 委員

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

平成 22 年度は、筋電、心拍の生体情報処理、音楽と言語情報の処理、ナスカの地上絵の情報科学の視点からの分析などの研究を進めた。また、教育としては、情報科学関連の講義を担当するとともに、清塚邦彦教授との共同で卒業研究の指導、渡邊洋一教授との共同で修士学位論文の指導を行った。

松尾 剛次

(1) 研究成果

① 著書

1. 遊学館ブックス『観る光らす 山形』(財)山形県生涯学習文化財団(共著), 2010年5月
2. 『新アジア仏教史 12 日本Ⅱ』『躍動する中世仏教』佼成出版社(共著), 2010年5月
3. 『中世律宗と死の文化』吉川弘文館, 2010年12月, p 1 - 266

② 論文

1. 「仏教者の社会活動」『新アジア仏教史 12 日本Ⅱ 躍動する中世仏教』, 2010年5月(p 141 - 186)
2. シンポジウム「Monotheism in Asia」(東京大学, 2010, 8, 30 / 31)においてオルガナイザー兼シンポジストとして報告する。報告テーマは「Monotheistic Aspects in Japanese Buddhism Focusing on Honen and Shinran」。
3. Monotheistic Aspects in Japanese Buddhism Focusing on Honen and Shinran Monotheism in Asia (The University of Tokyo 2010 8 30) pp92 - 97
4. 「Death and Buddhism in the Japanese Middle Ages: From the Standpoint of the Official Monks/ "Secluded" Monks Paradigm of Japanese Buddhism in (THE EASTERN BUDDHIST, p72 - 96) , Vol.41 · No. 2 · 2010
5. 「Monotheistic Aspects in Japanese Buddhism」(Monotheism in Asia, p109 - 112) 2010年12月

③ その他

1. 講演「葬式仏教の歴史と課題 —現代宗教における葬儀の意義を考える—」(富山東別院会館 富山教区教化委員会 寺族研究小委員会), 2010年4月6日
2. 書評「馬場基著『平城京に暮らす 天平びとの泣き笑い』」『山形新聞』2010年4月11日
3. 特別寄稿「伊勢弘正寺の巨大五輪塔(後)」『月刊石材 vol. 355』2010年4月15日
4. 書評「桜井義秀著『死者の結婚 祖先崇拜とシャーマニズム』」『山形新聞』2010年5月9日
5. 監修「日本仏教の歴史を読み解く」「日本の仏教 13 宗の総本山・大本山を訪れる」『一個人』2010年7月
6. 講演「鎌倉仏教と非人の救済」(熊本学園大学 差別と人権に関する委員会), 2010年7月2日
7. 書評「川口マーン恵美著『ベルリン物語 都市の記憶をたどる』」『山形新聞』2010年6月13日

日

8. 書評「高橋典幸著『源頼朝』東国を選んだ武家の貴公子」『山形新聞』2010年7月11日
9. 模擬講義「オープンキャンパス『ジブリ作品と宗教学』」『人文学部103教室』2010年8月8日
10. 書評「島藺進著『国家神道と日本人』」『山形新聞』2010年8月15日
11. 「山形美術館にて親鸞展ギャラリートークを行った」2010年8月22日
12. 「聖徳太子」『やすらぎ通信2010年夏・秋号』ユーキャン出版事業部, 2010年8月(p10)
13. 書評「末木文美士『近世の仏教』華ひらく思想と文化」『山形新聞』2010年9月5日
14. 「宗教学事典」『もの乞い・托鉢』『説経・唱導・勧進』MARUZEN, 2010年10月
15. 書評「浅古弘・伊藤孝夫・植田信広・神保文夫編『日本法制史』」『山形新聞』2010年10月24日
16. 記事「親鸞なう」『福井新聞』2010年10月15日
17. 講演「山形夜話」(コンソーシアム山形)2010年11月10日
18. 公開講座「山形の魅力再発見パート8」(安達峰一郎記念対賢堂, 山形大学人文学部205教室, 庄内バスツアー)10月16日・30日・11月7日
19. 書評「三宅和朗著『時間の古代史～靈魂の夜, 秩序の昼～』」『山形新聞』2010年11月21日
20. 「最澄」『やすらぎ通信2010年冬号』ユーキャン出版事業部, 2010年12月(p11)
21. 「仏教・宗教関係書 今年の3冊2010」『週刊仏教タイムズ』2010年12月9日
22. 歴史教室「奥州藤原氏と出羽の国」(平泉文化遺産センター)2010年12月16日
23. 書評「福島金治著『北条時宗と安達泰盛』」『山形新聞』2010年12月19日

(2) 教育, 地域連携等の活動

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

本年は, 著書3, 論文5など大いに成果のあがった年であった。また, 卒論・修論で13人の指導をするなど大変であった。

三上 喜孝

(1) 研究成果

(著書)

三上喜孝・藤森健太郎『Jr.日本の歴史2 都と地方のくらし 奈良時代から平安時代』小学館, 2010年11月, 301頁。

(論文)

三上喜孝「日本出土古代木簡 一近年出土の木簡一」(韓国語)『木簡と文字』第5号, 2010年6月, 韓国木簡学会

(学会発表)

三上喜孝「古代日本の境界意識とその変遷—北方地域を中心に—」山形大学歴史・地理・人類学会第12回大会(於山形大学人文学部)2010年6月19日

三上喜孝「日本古代地方社会における論語の受容 ―習書木簡の検討を中心に―日本古代の文字と言語」成均館大学東アジア学術院 国際会議「『論語』と東アジア ―地下の『論語』・紙上の『論語』」2010年8月26～27日。

(2) 教育, 地域連携等の活動

2010年度における授業 (担当授業名)

基盤教育・教養科目「論争する歴史学」「貨幣からみた日本の歴史」(各2単位)

専門科目「歴史学基礎」「日本史概論(一)」「日本史講義(一)」「日本史講読(一)」「文化財調査実習」(各2単位)「日本史演習(一)」(4単位)

大学院「日本古代史特論Ⅱ」「日本古代史特別演習」(各2単位)

卒業論文指導

「式部省の成立と性格」「律令国家における賤民について」「古代における賑給の考察」「古代における銀の役割」

地域連携活動(審議会, 講演会, ボランティア等)の紹介

2010年度山形大学人文学部公開講座「海を渡った Japanese」講演題「『日本』の船出 ～古代『日本』と東アジア世界の交流～」2010年6月7日 於山形大学。

岩手県立盛岡第三高等学校緑丘プレ講座にて「『日本』の誕生から『日本史』はいつからはじまるのか～」と題して出張講義を行う(2010年10月13日)。

國學院大學栃木高等学校にて「出土文字資料からみた日本の歴史」と題して出張講義を行う(2010年10月30日)。

(3) 2010年度の研究・教育活動についてのコメント

研究面では, 韓国に出土文字資料調査のために数度出張し, また, 成均館大学の国際会議において韓国語で研究発表をした。さらに, 中・高校生向けの「日本の歴史」シリーズ, という出版社の大型企画に関わり, 執筆を担当した巻が刊行された。

教育面では, 講読や演習を通じて文献史料の読解に重点を置いたほか, 実習(奈良・京都方面)等を通じて生の歴史資料を見る機会を提供した。また, 卒業論文の指導にも力を入れた。

元木 幸一

(1) 研究成果

(論文)

「笑いと教会―ヨーロッパ中世美術におけるユーモア表現について―」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第7号, 平成22年10月, 39-52頁。

「さかさまの世界: ヨーロッパ中近世美術におけるユーモア表現について」『山形大学人文学部研究年報』第8号, 平成23年3月, 59-81頁。

(2) 教育，地域連携等の活動

(授業)

基盤教育基幹科目「美術における男女の共生／競生／狂生」教養科目「西洋美術への招待（芸術）」学部専門科目「芸術文化基礎」「文化環境学（一）」「芸術文化概論」「芸術文化特殊講義」「美学・芸術学演習」「美術史演習」「芸術文化実習」「人間文化総合講義」

大学院「欧米文化特別研究Ⅱ」「美学・芸術学特論（地域教育文化研究科）」「美学・芸術学特別演習」（卒論指導）

「光と窓—17世紀オランダ風俗画に至るまで」「ピーテル・デ・ホーホの絵画にみられる女性像についての考察」「長井市総宮神社の獅子頭考」

(修士論文指導)

「ヤン・ファン・エイク作《受胎告知》(ワシントン・ナショナルギャラリー所蔵)の床面図像の解釈」（地域連携）

放送大学山形学習センター学生交流会非常勤講師「山形美術館作品解説」，同センター「卒業論文の書き方」講演

(講演等)

「山形大学FDの一年：教員の相互研修システムによる」（独立行政法人国立高等専門学校機構プロジェクト研究集会報告）

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では、ヨーロッパ中世美術におけるユーモア表現に関する論文を二つ発表した。また鹿島美術財団からの助成金により、宗教改革期におけるニュルンベルクの農民祝祭版画を研究するため、夏期にニュルンベルク、ミュンヘン、ウィーンなどを調査旅行した。この時期のもっとも重要な木彫祭壇であるザンクト・ヴォルフガング祭壇を見ることもできて、かなり満足のいく成果を上げたと考えている。その成果は翌年に報告した。

教育面では基幹科目出発の年であり、かなり不安な気持ちを抱きながら授業をし、まだまだ満足のいく授業になったとは思えなかったが、授業後の学生のエッセイや授業アンケートの結果では意外に好評だったので、狐につままれたような印象。

卒論指導では、3名ともそれぞれの特徴の良く出た好感の持てる論文を完成することができたと思う。皆真面目に取り組んでくれたので、指導も楽しかった。

修論は、とてもレベルの高い修士論文を仕上げることができたので、本人は不満のようだが、指導教員としては比較的満足している。私と同じ分野の研究で、私自身は修士論文の主張に賛成ではないが、同じ土俵で相撲を取ることができるほどのレベルには達しているものと評価したい。この修論は平成23年度のティーデマン・ふすま賞を受賞することになる。

全体としてみれば、研究教育に比較的集中できた年だったように思う。

森岡 卓司

(1) 研究成果

[単著論文]

1. 森岡卓司「日本近代文学の地政学 ―文化的「翻訳」という問題―」ハルビン工業大学人文社会学院『ハルビン工業大学人文学院日本山形大学人文学部学術交流会記念論文集』平成22年9月(10日) pp90～96
2. 森岡卓司「ポスト六〇年代作家としての村上春樹 ―「1973年のピンボール」試論―」東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第34号 平成23年1月31日 pp36～55

[記事]

1. 森岡卓司「やまがた再発見」15. 田山花袋 上, 16. 田山花袋 下, 『山形新聞』平成22年7月26日, 8月2日
2. 森岡卓司「やまがた再発見」36. 森英介 上, 37. 森英介 下, 『山形新聞』平成23年1月17日, 1月24日

[口頭発表(単独)]

1. 森岡卓司「マラーノとしてのテクスト ―伊集院静と〈戦後〉日本の地政学―」日本比較文学会東北支部 第8回比較文学研究会 平成22年7月31日 仙台市青年文化センター
2. 森岡卓司「フィクションとアイロニー ―村上春樹「1973年のピンボール」試論―」平成22年度日本近代文学会東北支部冬季大会 平成22年12月25日 山形テルサ

[講演]

1. 森岡卓司「「山形」の「文学」を考える」平成22年度山形県飽海地区高等学校国語教育研究協議会研究会 平成22年5月13日 酒田東急プラザビル「ル・ポットフー」
2. 森岡卓司「日本近代文学の地政学―文化的「翻訳」という問題―」ハルビン工業大学人文学院日本山形大学人文学部学術交流会 平成22年9月10日 ハルビン工業大学(中国)

(2) 教育, 地域連携等の活動

[出張講義]

新潟県立巻高等学校(平成22年9月22日)

札幌北陵高等学校(平成22年11月5日)

宮城県白石高等学校(平成22年11月15日)

[教員免許状更新講習]

芦立一郎, 中澤信幸, 森岡卓司「国語教材の研究」平成22年度教員免許状更新講習(中学校教諭(国語)・高等学校教諭(国語)対象) 平成22年8月3日～8月5日 山形大学人文学部

[論文指導]

卒業論文3名

[授業担当]

「谷川俊太郎の世界(文学)」ほか教養教育科目3, 「日本文学概論」ほか専門教育科目5, 「国語科教材研究A」として教職科目1, 「日本近現代文化論特別演習」ほか大学院担当科目2, 非常勤担当科目2(東北文教大学短期大学部)。ほかに, 進路指導委員会担当授業「キャリア・ガイ

ダンス」担当, 「キャリア形成論演習」アテンド。

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

平成 20 年度科学研究費補助金基盤研究 (C), 「1960 年代日本における文学概念の変容についての総合的研究」(課題番号 20520152, 研究代表者北海道大学大学院准教授押野武志), および「脱ジャンル領域としての「小品」に関する動態的・文化史的総合研究」(課題番号 20520153, 研究代表者東北大学大学院教授佐藤伸宏) の両共同研究の研究分担者として研究を進めた。

学会活動としては日本近代文学会東北支部運営委員, 日本比較文学会東北支部運営委員, 日本文芸研究会全国委員。日本近代文学会東北支部運営委員として, 冬季大会を山形テルサで開催した (12 月 24 日)。

また, 『東北近代文学事典』の編集委員として事典編集に携わった。

学内委員としては進路指導委員 (2 年目), 公開講座運営委員 (1 年目), 他。進路指導委員として授業「キャリア・ガイダンス」の授業改善に取り組んだ。

人文学部の行事として, ハルビン工業大学に訪問し, 貴重な交流体験をさせていただきましたことに感謝します。

森田 光宏

(1) 研究成果

[研究論文]

1. 小泉有紀子・森田光宏 (2011) . E-learning による授業外英語学習の促進を目指して—授業内小テストによる学習確認と教員によるその活用 (山形大学基盤教育院英語における事例) 『東北英語教育学会』, 第 31 号, 113 - 119
2. 鈴木淳・森田光宏 (2011). 大学生の英語基礎力と TOEIC スコアの関係についての一考察 『東北工業大学紀要 II 人文社会科学編』, 第 31 号, 87 - 90
3. Matsuno, K., Murao, R., Morita, M., Sakaue, T., and Sugiura, M. (2010). Production units in English writing: A comparative study of writing fluency between native speakers and non-native speakers of English. in Hirakawa, M. et al. (eds). Studies in Language Sciences, 9, 143 - 159. Kuroshio Publishers

[口頭発表]

1. 森田光宏・小泉有紀子「英語日記支援のための SNS の活用」第 36 回全国英語教育学会大阪研究大会 (関西大学) (2010 年 8 月 8 日)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- 教養教育担当授業: 英語 (C), 英語 (R),
- 専門教育担当授業: 実践英語 (一), 英語学演習, 英語の教材研究 (B)

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

[研究]

- 本年度より科学研究補助金（日本学術振興会 平成 22, 23, 24 年度 科学研究費補助金若手研究 (B) 課題番号：22720210) の交付を受け、「日本人英語学習者の心的辞書における派生語と語幹の関係についての研究」を行っている。
- 文章産出過程を情報として含む新しい形式の日本人学習者コーパス「動的コーパス」を構築し、日本人英語学習者の英語産出過程を明らかにすること試みた。

[教育]

- 受講生らが互いに知識を確かめ合い、高め合うように授業内容を工夫した。

山崎 彰

(1) 研究成果

(口頭発表)

「19 世紀前半ブランデンブルク貴族の地域支配」（「軍隊と社会の歴史」例会 2010 年 12 月 4 日）

(2) 教育，地域連携等の活動

- 基盤教育

「ヨーロッパ史における共生と環境」（基幹科目）、「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」（教養科目）

- 専門教育

「歴史学基礎」「西洋史概論（二）」「西洋史講義（二）」「西洋史演習（二）」「西洋史講読（二）」「卒業論文」。以上の他に松本邦彦准教授とともに「地域づくり特別演習（二）」を企画，実施した。

- 大学院教育

「ドイツ史特論」「ドイツ史特別演習」を用意したが，今年度は受講者はなし。

- 社会連携の分野では，平成 22 年度山形大学地域貢献事業として，「山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー収蔵作品の歴史的資料としての整理と紹介事業」を実施し，同ライブラリーのロシア，東欧，東ドイツ関係の収蔵作品の調査を行った。
- 秋田中央高校で出張講義を行った。

(3) 平成 22 度の研究・教育活動に関するコメント

- 科研費（基盤研究 C）「創設期マルク経済協会に関する実証的研究」（代表・山崎彰）の初年度であり，ドイツにおける史料の存在状況について確認を行った。
- 基盤教育授業「ヨーロッパ史における共生と環境」は，基幹科目「共生を考える」として今年度初めて実施したものである。今後授業としての完成度を高めていきたい。

山田 圭一

(1) 研究成果

[学会発表]

山田圭一「知識の物語り論序説 ―一人称知識言明の分析を通じて―」, 東北哲学会 (於 東北大学), 2010年10月。

山田圭一「初等中等教育における哲学教育の現場から考えた哲学の範囲と哲学の意義」(ワークショップ「哲学の範囲を描き直す」), 日本科学哲学会 (於 大阪市立大学), 2010年11月。

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当授業名: 「ドイツ語 A 1」, 「哲学概論」, 「哲学演習三」

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

- 2010年も前年から引き続き「初中教育における哲学教育研究」(挑戦的萌芽研究, 課題番号: 21652002)の研究代表者として初等中等教育段階での哲学教育の意義と可能性についての研究と実践を行った。
- 同様に, 前年から引き続き, 日本科学哲学会の石本基金若手研究助成(課題名「帰属者の文脈主義モデルを用いた認識的多元性の解明」)を受けて, 新しい認識モデルの構築を行った。
- 教育活動においては, 可能な限りこちら側から問いを投げかけ, 学生自身に考えさせる授業をドイツ語, 哲学両方の授業で試みた。

山田 浩久

(1) 研究成果

- 「「まちづくり」を誘導する都市計画の可能性 ―山形県長井市を事例にして―」, 2010年3月, 山形大学歴史・地理・人類学論集, 12.
- 「地方都市の市街地再生事業が抱える問題点 ―山形県長井市を事例にして―」, 2010年4月, 季刊地理学, 62-1.
- 「環境整備事業に伴う生活圏拡張の可能性と課題 ―山形県長井市駅前親水公園事業を事例にして―」2010年4月, 季刊地理学, 62-1.
- 「自然災害の危険度が土地評価に及ぼす影響 ―宮城県仙台市を事例にして―」, 2010年9月, 東北地理学会大会発表.
- 「土地の所有関係に起因する地方都市の問題点 ―山形県長井市を事例にして―」, 2010年10月, 日本地理学会大会発表.

(2) 教育, 地域連携等の活動

基盤教育: 地域の共生 (共生を考える)

学部教育: 地理学基礎, 地域構造論, 地誌学, 環境地理学演習, 地域構造論演習, 環境地理学調査実習, 都市地理学調査実習, 共生人間学 (一), 人間文化入門総合講義

大学院: 経済地理学特論, 経済地理学特別演習

- 山形県総合政策審議会特別委員
- 山形県広域調整会議委員
- 長井市経済再生戦略会議コーディネータ
- 上山市観光マップコーディネータ
- 高校に対する模擬講義, 学部説明 (富谷高校, 南陽高校, 黒磯高校, 角館高校, 多賀城高校, 楯岡高校)

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

土地評価に関する研究は, 総括に時間がかかり 2010 年度中に研究成果の公表が出来なかった。東北諸都市に関する個別研究については, 相応の成果を上げることができたと考える。地域連携に関わる研究・教育活動は概ね順調であり, 今後も政策提案を含めた実践的な活動を継続していく予定である。

山根 純佳

[論文]

山根純佳「人権は誰の権利か」井上達夫編『講座 人権論の再定位 5 人権論の再構築』法律文化社, (2010 年 10 月) pp. 27 - 45

[共著論文]

山根純佳・山下順子「『選択』としての『おひとりさま』言説の功罪」千田有紀編『上野千鶴子に挑む』勁草書房 (2011 年 3 月) pp.323 - 342

[discussion paper]

“Difficulties experienced by care workers after the LTCI Act: the gap between user-centered care and efficient work,” University of Bristol International Workshop : Personalization of Care in Japan and the UK. 19, July, 2010

[学会発表]

「ケアワークにおける分業と再生産労働の位置づけ——介護施設における食事づくりを事例として」第 83 回日本社会学会大会, 名古屋大学, 2010 年 11 月

[コメンテーター]

ラウンドテーブル 「エヴァ・キテイ著『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』(邦訳:白澤社)をめぐって」東京大学 教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター 2010 年 11 月

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

現代社会学演習, 社会学演習, 社会調査論, 比較社会システム論, 調査方法演習

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

着任して 1 年目の年度で, 授業準備, 卒論指導などに力を入れた。社会調査関連の授業では

山形大学の学生へのアンケート調査の実施、集計などをおこない、社会調査の具体的方法を学生が習得できるよう心がけた。

ライアン・スティーバン

(1) 研究成果

Ryan, S.B. (2011) . Highlighting the Merits and Demerits of High and Low Context Oriented Communication Cultures in Business: Fukushima nuclear accident and Japan's communication with the international community. In Editor Lijuan, D. (Ed.) International Proceedings of Economics Development and Research: Humanities, Society and Culture (ICHSC 2011) , pp. 231-235, Vol. 20. Singapore: IACSIT press.

2011. 1. Presentation. "How to Deal With Cross-Cultural Misunderstandings Between English and Japanese Speakers. Japan Association of Language Teachers (JALT) . Yamagata Chapter.

2010. 12. Presentation. "Language and Culture's Influence on Thought". The International Association of of Japanese Studies (IAJS) . Yamagata, Japan.

2010.5 "Bringing Cultural Background Knowledge to the Surface to Better Understand Cross-Cultural Conflict in Specific Contexts." Intercultural Communication Studies Journal, University of Rhode Island, Vol. XIX:I, pp. 214-235.

(2) 教育、地域連携等の活動

Society for Intercultural Education Training and Research (SIETAR)
Japan Association of Language Teachers (JALT)

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

Research interests include English language education, Intercultural Education and Training. Current research focuses on how cultural schema can result in cross-cultural conflict and misunderstanding.

渡辺 文生

(1) 研究成果

《学会、研究会などの口頭発表》

「ストーリーを語る談話・文章における視点の表現の分析」2010 CAJLE Annual Conference, University of British Columbia, Vancouver, Canada, 2010.8.15.

「日本語の作文における視点の表現」ハルビン工業大学人文社会学院・山形大学人文学部 学術交流会議, ハルビン工業大学, 中国, 2010.9.11.

「語りの談話・文章における主題標識に関する日韓対照研究」7th International Conference on Practical Linguistics of Japanese, College of Humanities, San Francisco State University, USA, 2011.3.6.

《出版物》

「語りの談話・文章における文末表現について — 「のだ」と「てしまう」—」南雅彦(編)『言

語学と日本語教育・』 pp. 123-140. くろしお出版

Clausal self-repetition and pre-nominal demonstratives in Japanese and English animation narratives. In P. Szatrowski (Ed.), *Storytelling across Japanese Conversational Genre* (pp. 147-180). Amsterdam: John Benjamins.

「初級日本語学習者の自主的教室外活動を目指したポートフォリオの導入 —学習者の目標設定と自己評価の観点から—」『日本語教育方法研究会誌』18 (1): 56-57. (澤恩嬉・後藤典子・山上龍子との共著)

(2) 教育, 地域貢献等の活動

担当授業は, 日本語学概論(一)・日本語学特殊講義・日本語学講読・日本語学演習・日本語(二)・共生人間学(二)《以上学部専門科目》, 日本語意味論特論・日本語意味論特演《以上大学院科目》, 基盤教育科目(言語学)・基盤教育科目(日本語)。

弘前南高等学校において出張講義を行った(2010年7月8日)。

(3) 当該年度の研究, 教育活動に関するコメント

研究活動に関しては, 初級日本語学習者の日本語運用能力支援に関する科学研究費プロジェクトに研究分担者として参加した。また, 2010年12月23日には, 山形テルサにおいて第4回談話分析コロキウムを主催し, ミネソタ大学・群馬大学・筑波大学・一橋大学・東北大学から研究者・大学院生を招いて研究発表会を行った。

ハルビン工業大学人文社会学院と学術交流会議を共催するにあたり, 山形大学人文学部側の企画とりまとめの仕事を担当した。2010年9月11日にハルビン工業大学で行われた会議では, それぞれの大学から7名ずつの教員が研究発表を行った。

学生の指導については, 日本語学コース2名の卒業論文を担当した。

渡辺 将尚

(1) 研究成果

○論文

「時間の文学としてのジークフリート・レンツ

——ラジオドラマ「家宅搜索」と長編小説『パンと見世物』

(「山形大学人文学部研究年報」第8号, 145～159ページ, 平成23年3月)

渡邊 洋一

(1) 研究成果

• 論文

伊藤理絵・本多薫・渡邊洋一, 「攻撃的ユーモアを笑う」, 『山形大学人文学部研究年報』, 8, 215 - 227, 2011年3月。

• フォーラム

渡邊洋一, 「ナスカ台地の心理学的空間」, 『季刊地理学』, 62, 229 - 233, 東北地理学会,

2010. (2011年1月発行)

• 国際会議発表

渡邊洋一, 「有关那须加的地上画的跨学科的研究」, 哈爾濱工業大学人文社会科学院 2010 年度国際学術講演会, 哈爾濱工業大学 (哈爾濱), 2010 年, 9 月.

• 講演要旨

渡邊洋一, 「ナスカ地上絵の空間イメージ」, 『イメージ心理学研究』, 7, 7 - 10, 日本イメージ心理学会, 2010 年 12 月。

(2) 教育, 地域貢献等の活動

a. 担当授業等

実験心理学入門 (教養教育科目), 心理学基礎, 心理学講義 (一), 認知心理学演習, 心理学実験, 心理学特殊実験, 行動科学情報処理実習, 卒業論文指導 (以上専門教育科目), 実験心理学特論, 実験心理学特別演習 (以上, 大学院授業科目)。

b. 学外活動

日本自動車連盟 (JAF) 山形支部交通安全実行委員会委員 (委員長)。

【法経政策学科】

赤倉 泉

(1) 研究成果

特になし

(2) 教育・地域連携等の活動

[教育]

担当授業 アジア政治論, アジア政治論演習, 政治学入門, 中国語

(3) 平成 22 年の度教育研究活動に関するコメント

研究に関しては, 引き続き毛沢東時代の政治および中国の民主化に関する研究を行った。教育に関しては, 中国をはじめとするアジア地域の政治状況等について取り上げた。政治学の授業では県選挙管理委員会の出前講座を利用するなどして工夫した。

阿部 未央

(1) 研究成果

- (論文)「雇用形態差別に対する法的アプローチ—イギリス法とアメリカ法の比較研究—(一)」『法學』第 74 巻第 3 号 27 - 75 頁 (東北大学法学会, 2010 年 8 月)
- (判例評釈)「配転後の精神障害と労災認定—国・福岡東労基署長 (粕屋農協) 事件福岡高裁平成 21 年 5 月 19 日判決労判 993 号 76 頁」『山形大学法政論叢』第 50 号 81 - 95 頁 (2011 年 3 月)

(2) 教育・地域連携等の活動

[教育] 労働法, 労働法演習, 人間と労働, 労働と法 (教養セミナー), 公務員講座
[地域連携]

- 厚生労働省「精神障害の労災認定の基準に関する専門検討会」委員 (2010年9月～)
- 出張講義 岩手県立金ケ崎高等学校 (2010年10月)

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では非正規雇用に関する論文を一部公表することができたほか、「精神障害の労災認定に関する検討会」に参加する機会に恵まれた。

和泉田 保一

(1) 研究成果

- 論説

「英国都市計画法における広域計画団体と狭域計画団体の役割分担の変容」法政論叢第50号 29～79頁

- 判例評釈

「監査委員に任意提出された資料の不開示事由該当性」民商法雑誌第142巻第3号 371～380頁

(2) 教育, 地域連携等の活動

- 担当授業

行政法Ⅰ, 行政法Ⅱ, 行政法演習, 総合講座Ⅰ (「条例による地域政策」)・Ⅱ (「公法」2コマ), 人文学部公務員対策講座 (集団討論2コマ他を担当)

- 地域連携活動

[審議会委員]

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員, 山形県医療審議会委員

[外部研修講師]

北陸地方整備局職員研修「法律 (Ⅰ)・(Ⅱ)」(9月, 7月)

[出張講義]

宮城県立仙台第三高等学校 (5月)

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

ゼミ合宿を群馬県のハツ場ダム建設地で行い, 大規模公共事業の遂行の実際とそれに関わる問題点を実地で調査した。また, 平成21年度に実施したロンドンでの調査の成果として, 冒頭に掲げた論説を完成, 公表した。

岩田 浩太郎

(1) 研究活動

〔科研費〕

- ・科学研究費補助金・基盤研究（C）「幕末・明治初年の農業構造と地域社会—羽州村山郡における再検討—」（研究代表者）

〔その他〕

- ・「紅花商業と東北」（山形大学都市・地域学研究所編『山形学—山形の魅力再発見—』山形大学出版会，2011年2月，19～28頁，原発表2003年を一部補訂）
- ・「紅花交易と山形」（大学コンソーシアムやまがた・最上川学プロジェクト推進委員会編『最上川学活動報告集2010』山形大学，2011年3月，9～10頁）

(2) 教育，地域連携等の活動

〔担当授業科目〕

- ・基盤教育科目：山形の歴史（地域学），古文書を読む（教養セミナー）
- ・専門教育科目：日本経済史，地域経済史，日本経済史演習
- ・大学院：歴史文化特別研究Ⅱ（修論指導・審査：主指導（主査）1本，副指導（副査）1本，副査1本）
- ・大学コンソーシアムやまがた・単位互換授業：最上川俯瞰講義（オムニバス形式。うち1回，「紅花交易と山形」を担当）

〔委員会活動〕

- ・学部：法経政策学科長（主に取り組んだ課題：学科予算制度の明確化，スタートアップセミナーと法経政策専門基礎演習の段階的的制度設計，DP・CPづくりの方針検討，定削経緯問題検証，人事計画），目標評価委員会委員（「平成21年度監事監査結果報告書に対する意見」作成・提出，「『中教審答申』『日本学術会議回答』から学ぶもの」報告），科研費アドバイザー，「学長選考制度の改善を求める意見書」作成・提出，「学長選考会議審議に関する意見」作成・提出，人事選考委員会委員（社会政策論）
- ・大学院：社会文化システム研究科教員資格審査委員
- ・全学：山形大学研究活動に関する行動規範特別委員会委員

〔講演・講座〕

- ・山形地区社会保険委員会山形支部平成22年度定例総会講演「山形商人の実力—長谷川家の商業活動」，2010年6月17日，於パレスグランデール（約65名参加）
- ・福島大学教職員組合学習会報告「大学運営の問題点—山形大学の状況—」，2010年7月29日，於福島大学経済経営学類大会議室（約30名参加）
- ・小川とびきり会講演「山形の長谷川家について」，2010年9月17日，於ホテルキャッスル（32名参加）
- ・NPO法人柏倉家文化村主催：「柏倉家文化村まつり」における山形大学人文学部日本経済史（岩田）ゼミナールによる「近代柏倉家の投資・金融活動」報告会（個別報告「九左衛門家の有価証券投資」「惣右衛門家の貸付と投資」），2010年10月3日，於東村山郡中山町岡 柏倉九左

衛門家北蔵 (54名参加)

- NPO法人柏倉家文化村主催／山形県村山総合支庁・中山町教育委員会共催：柏倉家ひな祭りイベント「柏倉九左衛門家のことをもって『知る』講演会」講演「柏倉家文書の魅力」, 2011年3月20日, 於東村山郡中山町岡 柏倉九左衛門家北蔵 (約30名参加)

〔社会活動〕

- NPO法人「柏倉家文化村」顧問 (山形県東村山郡中山町柏倉九左衛門家・柏倉惣右衛門家の調査研究, ひな祭りボランティア協力, 意見書「歴史文化遺産及び環境遺産としての柏倉九左衛門家と周辺エリア」を山形県へ提出)
- 柏倉九左衛門家所蔵粉堂古文書の整理保存・目録作成事業 (2008年8月開始～2010年10月完了)
- 柏倉惣右衛門家所蔵古文書の整理保存・目録作成事業
- 奥羽史料調査会世話人 (宮城県柴田郡村田町大沼正七家文書整理・目録作成・調査研究など)
- 山形大学職員組合執行委員会副執行委員長 (2009年7月～2010年6月)
- 山形県山形市の旧家からの古文書寄贈や古文書撮影調査の要請への対応
- 山形市民から依頼された研究論文・地誌の作成執筆に関わる指導・助言
- 西村山郡河北町民からの地域史に関する問い合わせへの対応
- 山形県村山総合支庁農業技術普及課からの紅花に関する問い合わせへの対応
- J R東日本鉄道事業本部への協力〔①大人の休日倶楽部広報誌『ジバング』2011年5月号の特集記事の内容提供・編集協力 (「第Ⅱ特集 紅花商人の栄華を商都・山形に訪ねる」監修), ②同倶楽部旅行企画への協力 (「『紅花の山形路』紅花商人の歴史と紅花摘み体験の2日間)〕

〔その他〕

- 「結城学長の大学観と大学運営の問題点―『文科省が主役』の大学づくりを批判する!―」(『山大職組情報』2010年度号外, 2010年5月, 1～11頁)
- 「学科長インタビュー／魅力ある教育をめざしています」(人文ニュース『アゴラ』第42巻第2号, 2010年12月)

(3) 平成22年度の研究・教育活動等に関するコメント

平成22年度の特徴は、法経政策学科長としての諸活動が中心となり、まとまった研究活動ができなかったことがあげられる。

研究活動では、地味な成果だが、東村山郡中山町大字岡の柏倉九左衛門家の粉堂から「発見」された数千点の古文書資料の目録(手書き原稿)を完成させたことが大きい。2008年夏の「発見」以来、同家に通い目録採りを継続した成果であり、同家に献呈した。年度始めに採択された科研費・基盤研究(C)のための諸調査(国文学研究資料館, 京都府立総合資料館, 河北町立中央図書館, 両柏倉家など)は頻繁に実行しえたが、それをまとめる時間がとれなかった。今後に期したい。

教育活動では、大学院の修論指導教員として3本の修論作成に関わった。とくに「近世後期村役人の動向について―羽州庄内川北大組頭制を中心として―」(杉原丈夫氏)の指導に力を注いだ。

社会活動では、JR 東日本「大人の休日倶楽部」企画に協力したり、県内の公共団体や NPO 法人及び民間業者からの要請に応えた講演を数度おこなった。紅花や古文書などに関する県や市民からの問い合わせや各種の要請へも対応した。

学内の活動では、大学運営と学長選考制度の民主化に関して提言したり意見書を発表した。学科長としては、通常の諸雑務をこなすとともに、中教審学士課程答申や日本学術会議回答及び他大学の動向を分析し、大学教育の自立性を尊重した観点もふまえながら、2011 年度にむけた人文学部及び法経政策学科における DP・CP づくりの方針を目標評価委員会で提起し議論した。また、関連して学科の将来計画＝人事計画構想づくりを年度末から開始した。また、本年度からはじまったスタートアップセミナーの授業実践につき担当者反省会やアンケートにより改善点を検討するとともに、2011 年度から開始する専門基礎演習（2 年次演習）の制度設計をおこなった。学科スタッフの一連の協力に感謝している。

殷 勇

(1) 研究成果

著書：

Data Mining: Concepts, Methods and Applications in Management and Engineering Design, Springer-Verlag; 1st Ed. (January 29, 2011)

論文：

1. C.G.Liu, J.Lian, Y.Yin and W.J.Li "Seru seisan - an innovation of the production management mode in Japan", *Asian Journal of Technology Innovation*, Vol.18, No.2, pp.89-113, 2010.
2. D.B.Cao, Y.Yin and I.Kaku "A criterion of production model selection for building material with delivery delay", *International Journal of Production Research*, Vol.48, Nos.10-12, pp.3429-3443, 2010.
3. C.G.Liu, K.Yasuda, Y.Yin and K.Tanaka "A heuristic algorithm for cell formation problems with consideration of multiple production factors", *International Journal of Advanced Manufacturing Technology*, Vol.46, Nos.9-12, pp.1201-1213, 2010.

(2) 教育・地域連携等の活動

教育：

基盤教育：「経営学への招待」, 「経営及び生産」

専門教育：「経営情報」, 「オペレーションズリサーチ」

大学院：「経営情報特論」

地域連携：

庄内産業振興センターが主催する「木曜フォーラム」で、「勝つ経営—セル生産を中心に」という題名のセミナーを行い、地域企業の関係者数十人が出席しました。

(3) 平成 22 年度研究・教育活動に関するコメント

研究に関しては、以下の 2 点は評価できます。A. 著名な出版社 Springer から著書が出版されること；B. 著名な国際ジャーナル *International Journal of Production Research* に論文を掲載

することです。

小笠原 奈菜

(1) 研究成果

[論文]

「フランチャイズ・チェーン運営者の加盟店に対する報告義務」

山形大学法政論叢 第48号 39頁

「当事者が望まなかった契約の適正化と情報提供義務—契約関係維持を中心として— (2)」山形大学法政論叢 第49号 101頁

[口頭発表]

「フランチャイズ契約の情報提供義務における「契約」概念」(国際取引法研究会, 2010年12月18日, 於 早稲田大学)

「更改, 免除, 混同, 決済手段の高度化・複雑化への民法上の対応の要否」(民法の改正を考える研究会, 2011年1月27日, 於 明治大学)

「私立学校の教育内容の変更と不法行為の成否」(東北大学民法研究会, 2011年2月17日, 於 東北大学)

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業科目]

- 教養教育科目: 判例を読もう (教養セミナー)
- 専門教育科目: 契約法入門, 債権各論, 民法演習
(オムニバス方式) 総合講座Ⅱ (法律), 公務員試験対策セミナー
- 大学院: 比較契約法特論Ⅱ, 比較契約法特別演習

[地域連携]

山形弁護士会主催判例研究会

[出張講義]

鶴岡中央高校

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

科学研究費補助金 (若手研究 (B)) の初年度として, 口頭報告を3本行なうことができた。成果の公表は次年度となる。教育・地域連携については, 学部2年生向けの入門講義を新たに担当し, 民法の基礎理論をわかりやすく教えるよう努力した。

緒方 勇

(1) 研究成果

[著書・報告書]

【書籍】『会計大学院教科書 管理会計演習 理論と計算』税務経理協会, 2011年1月。(共著。)

緒方は第10章担当)

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当講義] 管理会計，管理会計演習，経営分析入門，情報処理，法経政策学基礎演習，管理会計特論Ⅰ（大学院），管理会計特別演習（大学院）

[地域連携活動]

- 山形仙台圏交流研究会にメンバーとして参加
- 山形大学生協 監事

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

研究に関しては、経営者の利益調整行動に関する研究を行い、学会に投稿した（アクセプト済み）。来年度中には掲載される予定である。また、会計大学院向けの教科書（一部）を執筆した。

教育活動については、学生が理解できる授業を目標とし、分かりやすく理解しやすい資料を作ることを心掛けている。

貝山 道博

(1) 研究成果

[著書]

- 山形大学都市・地域学研究所編『山形学—山形の魅力再発見』（山形大学出版会，平成23年2月）の編集作業に従事

(2) 教育、地域連携活動

[担当授業]

- 学部：財政学（前期・後期），経済数学（後期），財政学演習（通年）
- 他機関（非常勤）：開発経済学（埼玉大学）（前期集中講義），統計情報分析力（山形県職員育成センター）（90分／回，計2回）

[地域貢献活動など]

- 学外：東北地方社会保険医療協議会山形部会長，山形県長寿医療懇談会長，上山市振興審議会議長，東北地方整備局入札監視委員会委員，山形運輸支局交通アドバイザー，山形県指定管理者審査委員会委員，社会保険診療報酬支払基金山形支部幹事
- 学内：山形仙台圏交流研究会座長
- その他：山形大学都市・地域研究所事務局長として，同研究所の賛助会員（地元企業）の獲得に努めた。また，同研究所主催の公開講座及び同研究所設立10週記念関連諸行事を企画・実施した。

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

山形大学附属学校運営部長として，1年間附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の教育・研究活動の統括的管理・運営にあたった。

私が研究代表者になっている科研費（基盤（C））の研究「地域公共交通システムのあり方—デマンド交通を中心として」についての調査・研究を行った。

その他に、是川晴彦教授が研究代表者となっている科研費（基盤（C））の研究「中心市街地活性化」にも分担研究者として加わり、調査・研究を行った。

学部教育に関しては、通常のノルマをこなしたが、山形大学附属学校運営部長を兼務しているため、本来行うべき前期の経済数学の講義を免除してもらった。

山形大学都市・地域学研究所事務局長として、地域との連携に努めた結果、多くの賛助会員（地元企業）を得ることができた。また、同研究所と山辺町との連携協定締結も実現することができた。

金子 優子

(1) 研究成果

論文

『公益法人制度改革と公益法人の活動実態を示す統計について』、山形大学大学院社会文化システム研究科紀要第7号、2010年10月1日

『日本の地方議会に女性議員がなぜ少ないのか—山形県内の地方議会についての一考察—』、年報政治学2010-II ジェンダーと政治過程、2010年12月1日

編著書

『Public Administration Handbook of Japan (First edition)』、立命館アジア太平洋大学、2010年11月1日（鈴木糸子、三好皓一と共編）

国際会議での発表

『New Statistics on Citizens' Environmental Conservation Activities』、国際生活時間学会第32回大会、2010年7月7日

(2) 教育、地域連携等の活動

担当科目：行政学、公共政策論、日本国憲法、技術進歩と行政、行政学演習、総合講座Ⅰ（公共政策）、行政学特論Ⅰ・Ⅱ、行政学特別演習

外部研修講師

鎌倉市議会議員研修 講師 鎌倉市役所会議室 2010年5月

山形市職員研修「行政法研修」講師 山形市役所会議室 2010年9月

村山地方町村議会議員研修 講師 西川交流センター 2010年9月

審議会委員

東根市情報公開・個人情報審査会委員

村山公立病院情報公開・個人情報審査会委員

山形市行財政改革推進懇話会委員

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、外部研究資金（19-20年度科学研究費補助金 基盤研究C 研究課題

番号:19530229「経済社会における公益法人の活動実態と期待される新たな役割に関する研究」を得た研究の成果を外部に発表することができた。また、日本学術振興会から委託を受けた二国間交流事業 共同研究「地方行政改革における非営利セクターの役割に関する日韓比較研究」の第二年次として、日本と韓国において研究調査を進めることができた。

教育活動については、プレゼンテーションソフトを利用することにより分かりやすい講義となるように努めた。また、行政実務家を招請して行政の現場についての講義を行っていただき、大学教育と実社会との連携に努めた。

北川 忠明

(1) 研究成果

論文：なし

(2) 教育、地域連携等の活動

担当授業：「政治と人間」（基盤教育）、「政治理論」（学部）、「政治理論演習」（学部）、「現代政治論特論」（大学院）

「現代政治論特演」（大学院）

地域連携：長井市「ながい市民未来塾」講師

山形県明るい選挙推進協議会委員

その他地域連携室長としての業務

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

本年度は翻訳・編集作業に大幅に時間が取られたため、論文執筆時間が十分に確保できず、発表にいたらなかったのが残念である。

國方 敬司

(1) 研究成果

論文「イギリス農業革命研究の陥穽」（『山形大学紀要（社会科学）』第41巻2号，2011年2月），pp.39 - 64.

(2) 教育・地域連携等の活動

(a) 担当授業

- ・西洋経済史，環境と経済，西洋経済史・環境と経済演習，教養教育（経済学），スタートアップセミナー

(b) 非常勤講師

- ・東北公益文科大学「環境経済学」「公害と市場経済」，山形短期大学「くらしと経済」

(c) 出張講義

- ・「環境政策の考え方」—ペットボトルリ・サイクルの問題点—（愛知県立豊田北高等学校）

(d) 講演等

- ・山形県県政広報テレビ特別番組「いき★いきやまがた：いのちと暮らしを支える医療・福祉・子育て支援等の充実」コメンテーター，2010年6月13日（日）YBC 他県内民放各局
- ・パネルディスカッション「地域素材を活かしたまちづくり」パネラー 第4次東根市総合計画策定記念事業まちづくり研修会（さくらんぼ東根温泉花の湯ホテル）2011年3月4日（金）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

特にコメントすべき点はない。

今野 健一

(1) 研究成果

学会報告：「教育人権論の展開と教育法学の役割」〔第40回日本教育法学会定期総会・研究総会報告〕（明治大学／2010. 5）

論文：「フランスにおける〈セキュリティ〉政策—立法のインフレ化と『自由』の危機？—」（一橋法学9巻3号〔2010.11〕）

提言：「〈人間教育〉の中の「憲法教育」～実践のための手がかかり～」〔法学館憲法研究所 HP 内、「憲法教育を考える」に掲載〕（2010.11.22 アップ）

論文：「教育人権論の展開と教育法学の役割」（日本教育法学会年報40号〔2011. 3〕）

(2) 教育，地域連携等の活動

担当授業科目

- ・学部専門科目：憲法Ⅰ，憲法演習Ⅱ，教育法，総合講座Ⅱ（法律）
- ・基盤教育科目：日本国憲法（後期）

地域連携活動

山形市情報公開・個人情報保護審査会委員，山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員

(3) 当該年度の研究，教育活動に関するコメント

研究面では，40周年を迎えた日本教育法学会の研究総会で報告を行う機会を得た。また，個人の人権とセキュリティに関する研究成果を論文として公表した。なお，民間の憲法研究団体の求めに応じて，憲法教育に関する提言を寄稿し，同団体のHPに掲載された（同団体発行の教員向け小冊子にも収録）。

教育面では，専門科目「総合講座Ⅱ（法律）」で取りまとめ役を務めた。法律学に1年生の関心をひきつけるのは案外大変であることを，今年度も痛感した。演習（ゼミ）では，恒例の卒業研究論文集を製作したが，2011年3月11日の東北大地震の影響で，卒業生たちに直接手渡すことができなかった。

是川 晴彦

(1) 研究成果

[科研費研究関係]

- 中心市街地活性化に関して、実態調査・ヒアリング、および理論的考察を行った（震災の影響で、調査の一部、および研究成果の取りまとめについて23年度への延期が認められた）。このため、中間的なまとめとして、

「豊橋市中心市街地の実態と活性化の取り組み」(mimeo)

(2) 教育、地域連携などの活動

[担当授業]

- 学部：ミクロ経済学，応用ミクロ経済学，公共経済学，ミクロ経済学演習
- 大学院：公共経済学特論，公共経済学特別演習

[地域貢献活動など]

- 山形県行政支出点検・行政改革推進委員会委員長
- 山形県産業構造審議会委員・部会長
- 山形県指定管理者審査委員会の外部委員
- ながい市民未来塾における講師
- まちづくり人材連携強化事業（村山市）
- 山形市における意見交換会の講師
- 出張講義（酒田西高校）

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

中心市街地活性化に関する研究（科研費研究：代表者）では、鳥取市、豊橋市などの事態調査やヒアリングを行った。その結果、地権者の意思決定に関する問題点や活性化政策の効果と課題について有益な知識や情報を得ることができた。また、他の科研費研究における研究分担者として、長野県東御市におけるダイヤモンド交通システムの実態調査を行った。課税理論の研究では、前年度に引き続き、不完全競争市場を対象とした分析を継続し、先行研究などの検討を行った。

教育面では、前年度に引き続き、配布資料の更新を行い、受講生にとって要点が整理しやすい資料の作成につとめた。大学院の講義では、受講生の基礎知識や研究目標のちがいに応じて個別に講義を行い、より高い教育効果が上がるようにした。

コーエンズ 久美子

(1) 研究成果

[判例研究]

会社の代表取締役が事実上主宰する別会社を利用して競業取引を行った場合における同人に対する競業避止義務違反に基づく損害賠償請求において、代表取締役個人およびその家族への報酬合計額の5割を損害と推定するのが相当であるとされた事例

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業] 商法 I, 商法 II, 商法演習 I, 国際商取引法 (理工学研究科)

[地域連携活動] 山形県消費生活審議会委員

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

取締役の競業禁止義務に基づく責任につき, これまで研究を重ねてきた信託法理を参考に損害賠償のあり方を検討した。

教育に関しては, とりわけ演習において学生が自分の見解を積極的, かつ理論的に伝えることができるよう, 口頭発表, 質疑応答の仕方の指導に力を入れた。

澤田 裕治

(1) 研究成果

・著書 (共著)

○『山形学—山形の魅力再発見—』山形大学都市・地域学研究所編, 山形大学出版会発行, 2011年2月 (澤田裕治「今なぜ安達峰一郎研究が必要か?」を執筆)

回顧と展望

○「中世／イギリス」『史学雑誌—2009年の歴史界—回顧と展望—』第119編第5号, 史学会, 2010年5月

・口頭発表

○「中世イングランドの婚姻訴訟について」西欧中世史研究会, 奈良女子大学, 2010年8月29日

(2) 教育, 地域連携等の活動

■平成 22 年度の担当授業の紹介

[山形大学における講義・演習等]

・教養教育科目: 基礎から考える法学, 基礎からの民法, 教養セミナー「民法の体系的理解を目指す」

・専門教育科目: 西洋法制史, 西洋法制史演習

[講演会] 熊谷真一シベール会長の講演会 (「井上ひさし氏の思い出」, 山形大学都市・地域学研究所主催, 山形大学, 2010年) を企画・実施し, 成功に導いた。

[連携協定] 山形大学・都市地域学研究所副所長として山辺町との間で連携協定締結 (2010年12月14日) に漕ぎ着けた。

[記念行事] 山形大学都市・地域学研究所副所長として「山形大学都市・地域学研究所設立10周年記念式典・祝賀会」を企画開催し成功に導いた。

[山形県立保健医療大学における講義] 法学

[山形県立産業技術短期大学校における講義] 法学概論

[山形市立済生館高等看護学校における講義] 看護関係法規 I

■地域貢献活動

山形大学医学部附属病院医薬品等受託研究審査委員会委員

山形県立保健医療大学倫理委員会委員

山辺町・山形大学連携協定懇談会委員

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では、前年度に引き続き、カール・ギュスターボックの研究を行ない、J・M・ケイの著作等の研究に従事しつつ、私訴追についての研究を深化させた。また不法行為法の危殆化責任に注目してドイツ法と英米法との比較法的研究を継続し、ジョン・M・クリーバークの論文「厳格責任から労働者災害補償法へ」について研究した。また新しく中世都市ロンドンの法と裁判に関する研究を開始した。

教育では、教養教育科目において、『対話 Dialogue17』と『対話 Dialogue18』と題するミニコミ誌を毎回発行し、学生同士と教員の相互コミュニケーションにより、講義内容の血肉化を図った。

下平 裕之

(1) 研究成果

[論文]

- ・「C. R. フェイの協同組合論」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第7号, 75 - 89 ページ, 平成22年10月。
- ・「D. H. マクレガーの有機的成長論批判」『山形大学人文学部研究年報』第8号, 199 - 213 ページ, 平成23年3月。

[研究会報告]

- ・「計量文献学・計量言語学における分析手法について」(第29回経済思想研究会, 2010年7月24日, 東北大学)

(2) 教育・地域連携等の活動

・教育活動

山形大学における担当授業：

[学部] 経済思想, 経済学史, 経済学史演習, 地域づくり特別演習, 公務員対策セミナー

[基盤教育] スタートアップセミナー, 最上川俯瞰講義, 最上川の自然と文化

[非常勤] 羽陽短期大学(経済学), 放送大学(地域活性化)

・地域連携活動

高校での出張講義：新庄南高校, 谷地高校

「ながい市民未来塾」における講演, 講師担当

第10回最上を拓く高規格道路建設促進大会における講師, アドバイザー担当

山形財務事務所財務モニター

大学コンソーシアムやまがた企画会議委員長, やまがた里の暮らし推進機構理事(大学コンソー

シラムやまがたを代表して任命)

川西町における学生フィールドワークの指導 (やまがた里の暮らし推進機構からの委託事業)
山形大学まちづくり研究所, 仙山圏交流研究会への参加

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については, 近年の主要研究テーマであるケンブリッジ学派の産業統治論に関連した論文を上梓するとともに, 科研費のテーマである経済学の伝播と普及に関する実証分析のための基礎研究を開始した。地域連携活動については, 「ながい市民未来塾」において市民向けの継続的な地域づくりに関わる講義に取り組んだ。

真保 智行

(1) 研究成果

- ・真保智行・長岡貞男「合併の研究開発シナジー：発明者データによる共同研究と知識フローの分析」『日本知財学会誌』Vol. 7, No. 1, 2010年8月
- ・真保智行「ライセンス契約の形態の選択：技術移転の論理と機会主義の論理」『組織科学』Vol.44, No. 1, 2010年9月
- ・中村健太・真保智行・長岡貞男「情報提供制度, 異議申立, 不服審判請求, 無効審判請求に関する経済学的分析」, 財団法人知的財産研究所編『平成 22 年度我が国における発明等の産業化に向けた出願行動等に関する調査報告書』, pp.153 - 183, 2011年3月

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・「経営学」「経営戦略論」「経営学演習」「スタートアップセミナー」「企業経営特論」
- ・2010年8月, 新庄北高等学校「山形大学研究室訪問プロジェクト」
- ・2010年公開講座で「モジュール化の進展と日本企業の課題」を報告

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

これまでの技術導入を中心とした研究を一区切りとつけ, 合併や特許制度といった新たな研究課題に着手した

鈴木 明宏

(1) 研究成果

- ・Do great distance and discussion among dictators facilitate self-interest of people? - Experimental evidence from dictator games, 山形大学人文学部法経政策学科 Discussion Paper Series 2010-E03, 2010.
- ・The Belief that Others Think Effort should be Rewarded: Experimental Evidence in Dictator Games, 山形大学人文学部法経政策学科 Discussion Paper Series 2010-E04, 2010.

(2) 教育, 地域連携等の活動

• 教育

学部：ゲーム理論・産業組織論・意思決定論演習・現代の経済理論（基盤教育）

大学院：ゲーム理論特論

• 地域連携

仙山交流研究会・まちづくり研究会メンバー

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

上記の論文は海外雑誌に投稿中である。教育については修士 2 年の学生に修士論文の指導を行った。内容は主に行動経済学・実験経済学についてのもので、Impunity Game についての経済実験を行い人々の行動を分析している。

鈴木 均

(1) 研究成果

次年度論文作成の準備期間で、格段の成果は無い。

(2) 教育, 地域活動

• 教育活動

山形大学における授業担当：

教養教育（経済学）、ヨーロッパ経済論、国際経済論、国際経済論演習（専門科目）、EU 経済特論、EU 経済特講（大学院）

• 学会活動

経済理論学会（幹事）、日本 EU 学会、国際経済学会

• 地域連携等

山形県 9 条の会・憲法ネットワークの代表委員を継続して勤めている。

雇用能力開発機構運営協議会委員

• その他

大学入試センター出題委員（政治・経済、21 年・22 年度）

大学院研究科社会システム専攻主任

(3) 平成 22 年度の教育・研究活動に関するコメント

格別なし。

砂田 洋志

(1) 研究成果

国際学会報告

- “Bayesian Estimation of Double Threshold GARCH Model and Its Application to Financial Data”

第 10 回中国日本統計シンポジウム（2010 年 10 月 16 日、西南財経大学、中国成都市）

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当授業

計量経済学, 統計学, 専門演習 (学部), スタートアップセミナー (基盤教育), 計量経済学特論・特別演習 (大学院)

計量経済学 I・II (東北公益文科大学・大学院)

客員教授 (放送大学山形学習センター), 卒業研究の指導 (放送大学)

地域連携

山形県市町村職員共済組合における学識監事

山形仙台圏交流研究会への参加

青森県立八戸西高校での出張講義 (2010年10月)

山形県統計利用アドバイザー

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

計量経済学関係の研究では, 二重閾値 GARCH モデルの経済データへの応用を試み, 研究成果を報告した。

中心市街地活性化の研究では, 「大型店撤退後の中心市街地再開発における経済行動分析」という題目の科学研究費補助金の分担研究者として鳥取市と米子市を調査した。

デマンド交通バスの研究では, 「高齢地域における地域公共交通システムのあり方: デマンド交通システムを中心として」という題目の科学研究費補助金の分担研究者として長野県東御市で調査をした。

教育関係では, 講義ノートを配布するなどして, 学生の理解を深めることに力を注いだ。大学院の特論の講義では受講生の知識に大きな差があったので, 前期は2クラスに分けて講義を行った。

放送大学山形学習センターにて客員教員を務めると共に, 卒業研究の指導を行った。また, 専門演習では, 2名の学生の卒業論文を指導した。

高倉 新喜

(1) 研究成果

- ・後藤昭・白取祐司編『新・コンメンタール刑事訴訟法』(日本評論社, 2010年7月)122 - 145頁[高倉新喜担当], 216 - 249頁 [高倉新喜担当], 910 - 922頁 [高倉新喜担当]
- ・高倉新喜「判例評釈・被告人の検察官調書を取り調べなかった第一審の訴訟手続の適否」『速報判例解説』6号(2010年4月)225 - 228頁
- ・高倉新喜「判例評釈・即決裁判手続の合憲性」『平成21年度重要判例解説・ジュリスト』1398号(2010年4月)223 - 224頁
- ・高倉新喜「文献紹介・合理的な疑いの起源 James Q. Whitman, The Origins of Reasonable Doubt, Yale University Press, 2008, pp. ix + 276」『アメリカ法』2009年2号(2010年6月)353 - 357頁
- ・高倉新喜「判例評釈・免訴判決を受けた場合の刑事補償の適否(横浜事件)」『速報判例解説』

7号(2010年10月)201-204頁

- 高倉新喜「判例評釈・勾留請求却下の裁判に対する準抗告申立て事件」『法律時報』82巻13号(2010年12月)356-359頁
- 口頭発表「裁判員制度における公判前整理手続と精神鑑定」
科研基盤(A)「刑事法学と心理学—刑事裁判心理学の構築に向けて」
平成22年度研究集会(2011年1月22・23日北海道大学)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- 専門科目: 刑事訴訟法
刑事法基礎
刑事訴訟法演習
総合講座Ⅱ(刑事法3・刑事法4)
公務員対策セミナー(論作文演習「少年犯罪に関する問題」)
- 基盤教育: スタートアップセミナー
裁判員制度—刑事司法との共生を考える(政経・社会B)
- 地域連携
出張講義: 福島県立会津高等学校(テーマ:「法律学って, 何やるの?」)
福島県立磐城桜が丘高等学校(テーマ:「法律学って, 何やるの?」)
栃木県立足利高等学校(テーマ:「法律学って, 何やるの?」)
山形県介護保険審査会委員
山形県精神医療審査会委員
山形県弁護士会綱紀委員会予備委員
取材協力: NHK山形, さくらんぼテレビ, 山形放送, 山形新聞, 河北新報, 讀賣新聞

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面においては、『新・コンメンタール刑事訴訟法』がようやく出版されたことが、感謝であった。判例評釈を発表する機会を多く与えられた。科研基盤(A)「刑事法学と心理学—刑事裁判心理学の構築に向けて」の研究分担者として、最終年度の研究成果を発表することができた。

教育面においては、スタートアップセミナーと公務員対策セミナーを初めて担当した。刑事訴訟法演習では、現地学習として山形刑務所見学を実施することができた。

裁判員制度と公訴時効の一部廃止等に関する取材協力が多かった。

高橋 和

(1) 研究成果

- 研究報告
「越境地域協力と国境管理」
北東アジア学会・東亜経済学会合同学術研究大会

2010年8月27日(韓国・東海市コンベンションセンター)

- ・著書(共著)『EU統合の流れのなかで東欧はどう変わったか』弘前大学出版会, 2010年, 3-116頁
- ・論文「越境地域協力と国境管理—シェンゲン条約と人の移動の管理をめぐって—」山形大学『法政論叢』第50号, 平成23年3月, 1-27頁

(2) 教育, 地域連携等の活動

○教育

- ・専門科目 国際関係論, 国際公共政策, 地域の国際化, 政治学入門国際関係論演習を担当
- ・大学院 国際関係特論Ⅰ, Ⅱおよび国際関係特別研究を担当

○地域連携

- ・山形県労働委員会公益委員
- ・山形県公立大学法人評価委員
- ・山形労働局 最低賃金審議会公益委員など

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

学部教育では, 平成21年度から採用しているクリッカーを使った授業を国際公共政策に取り入れ, 学生の主体的な授業への参加を促す試みを続けている。

大学院の授業では, 上記授業とともに, 修士論文の指導を行った。

高橋 良彰

(1) 研究成果

法政大学で, ボアソナード・梅謙次郎没後100年記念企画として行われた第1回シンポジウム「近代法曹養成と法政大学 東京法学校の教師たち」において, 「司法省法学校における日本民法草案財産編講義とボアソナード」という報告を行った。

(2) 教育, 地域連携等の活動

金融取引法入門(前期ゼメ), 債権総論・担保物権(後期ゼメ), 教養教育(前期), 民法演習Ⅲ(通年), 外書講読Ⅲ(後期)

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

目標評価委員会での会議などにおわれた一年であり, 研究成果が思うように挙げられなかった。なお, 科学研究費による法典調査会民法議事録の調査を引き続き行っている。

田北 俊昭

(1) 研究成果

○論文

田北俊昭・岡田真郁子: 高級果物における「地域ブランド」の評価について—日本山形産さくら

んぼを事例にして，山形大学人文学部研究年報，第8号，2011年3月

○学会報告

田北俊昭・岡田真郁子：高級果物における「地域ブランド」の価値評価—日本山形産さくらんぼを例として—，2010年度第24回応用地域学会研究発表大会，名古屋大学，2010年12月

○その他

田北俊昭・長谷川浩一・長谷川志郎：近代遺産「長谷川製糸所上山工場」の発見，月刊『かみのやま』，第119号，2011年3月1日

(2) 教育，地域連携等の活動

○教育

- ・専門科目：経済情報科学（前期・後期），地域科学，経済情報科学演習
- ・教養科目：都市経済と情報

○他大学との合同発表会・地域での教育活動

東北大学・山形大学・筑波大学・東京外国語大学等の国内大学・大学院の夏期合同セミナーに参加している。当研究室の所属学生は卒業研究（3年次・4年次）または英文論文のレビュー発表を義務づけている。自分自身の現在の研究状況を客観的に把握するために，他大学の大学3年から大学院修士・博士課程の学生の発表を聞いてもらう。自分自身の研究の進捗状況や研究レベル等を把握してもらい，刺激を受けてもらうとともに大学院進学者も育成する。

都市・地域に関する経済分析を行うことも大事ではあるが，山形の農林業や環境関連施設の見学・体験・研究会を通して，様々なものの見方を養うことも大切にしている。今回は，地域ブランド産業である「オリエンタルカーペット」，山辺の「さくらんぼ」，世界的に影響を与えた「安達峰一郎」，紅花商人の長谷川家の紅の蔵での「創作デザート」について，地域で活躍する関係者にご講演をいただきながら，大学教員として私がコーディネートした。参加者については，山形大学と東北大学の地域科学系の研究室の学生10名程度で，2010年7月に開催し，安達峰一郎記念館安達尚宏氏・山形市観光協会関係者の協力を得た。

○地域連携

- ・長谷川製糸所旧上山工場第1回調査（2010年11月）
- ・長谷川製糸所旧上山工場第2回調査（2011年2月）

当研究室は，最高級「羽前エキストラシルク」に関する産業集積，明治期から昭和までの国内外の交通について調べている。シンボリックな製糸工場（内部の木造構造）がほぼ完全な状態で見つかったのは感激であった。都市計画・施設計画，地域ブランド戦略等のまさに，建築・土木計画，都市経済学，都市交通史，農業生産・養蚕・繊維等の多数の分野を網羅する新しい地域ブランド戦略を構築していくための準備を進めている。

- ・地域ブランドに関する学術調査

2010年12月及び2011年1月には，高級米「つや姫」のブランド価値評価に関する東京銀座調査を，山形県および山形県観光協会の協力の下，調査を行った。

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

本研究室では，卒業論文の作成を毎年全員に提出をしてもらうが，国内外でまだ行われていない創造性のあるテーマを模索して，地域経済の分析を行うことを主眼としている。

立松 潔

(1) 研究成果

◆報告書・テキスト等

- 山形大学基盤教育院編集・発行『スタートアップセミナー教員用実践マニュアル なさねば成らぬ!』2011年3月
- 山形大学基盤教育院導入科目部門『スタートアップセミナーの改善・充実をめざして—平成22年度導入科目実施報告書』2011年3月
- 山形大学基盤教育院基盤教育実施会議『山形大学基盤教育実施報告書』2011年3月

(2) 教育、地域貢献等の活動

■平成22年度の担当授業の紹介

○基盤教育科目

「人間と経済（政経・社会A）」（基幹科目・人間を考える）

「スタートアップセミナー（人文学部法経政策学科）」

「Jリーグと地域社会」（教養セミナー）

○他の教員との共同で担当する基盤教育科目

「現代社会の諸問題」（基幹科目・共生を考える）1回担当

○専門教育科目

「日本経済論」前・後期

「地域経済論」後期

「日本経済論演習」通年（卒論指導も含む）

○オムニバス科目（他の教員と共同で担当）の専門教育科目

「公務員対策セミナー」運営事務局担当。講義、集団討論演習、論作文演習担当（計5回）

「総合政策講座Ⅲ」（経済・経営）：1回担当

○大学院

「日本産業構造分析特論Ⅰ」

「日本産業構造分析特別演習」

「特別研究Ⅰ」

「特別研究Ⅱ」

■地域貢献活動

○審議会委員等

山形県職業能力開発審議会（会長）

山形県労働委員会公益委員（会長代理）

寒河江市振興審議会委員（会長）

山形市地産地消の店認定委員会（委員長）

J1元気プロジェクト会議（会長代理）

○公開講座等

- 平成22年度山形大学公開講座（人文学部）『『失われた20年』と日本企業』平成22年10月12日
- 山形大学基盤教育シンポジウム「教育改革に向けた山形大学の挑戦」（初年次導入科目の取組についての報告と総括討議座長を担当）平成22年8月28日，キャンパスイノベーションセンター（東京都港区芝浦）

○出張講義等：

- プロジェクト4A F D／S D企画 講演会「学生の日本語運用能力をどうするか？」（平成22年8月18日）
- 旭川北高等学校 出張講義「社会・経済環境の変化と必要とされる人間力」（平成22年8月26日）：
- 国立情報学研究所主催平成22年度学術情報リテラシー教育担当者研修 講義「大学における初年次教育の動向」平成22年10月21日，11月18日。
- 県北地区福島県高等学校図書館研究会研修講演「学生の日本語運用能力向上を目指して」平成22年11月25日
- 東日本国際大学平成22年度F D研修会講演「初年次教育における課題と展望」平成22年12月8日

(3) 当該年度の研究・教育活動に関するコメント

平成22年度は基盤教育発足の初年度であることから導入科目や基幹科目という新しい科目の授業を担当し，基盤教育実施会議議長，導入科目部門長としての公務やアンケート調査，シンポジウム，各種報告書の作成にも忙殺された。また導入科目のテキスト『なせば成る！』が注目されたこともあり，取材への対応や講演依頼も相次いだ。そのため本来の専門分野（経済学）の研究に十分な時間を割くことができなかつたのは残念であった。

戸室 健作

(1) 研究成果

[著書]

- 戸室健作『ドキュメント請負労働180日』岩波書店，2011年2月23日，208頁。

[論文]

- 戸室健作「製造業における請負労働の過去・現在・未来」『山形大学紀要(社会科学編)』41巻2号，2011年2月15日，1－19頁。

(2) 教育，地域連携等の活動

[担当授業科目]

- 基盤教育科目：社会政策と共生
- 専門教育科目：社会政策論，社会保障論，社会政策論演習，法経政策総合講座I（オムニバス1回担当）

- 大学院：社会政策特別演習
- その他：公務員対策セミナーの講義と論作文指導

[委員会活動等]

- 学部国際交流委員会委員
- 法経政策学科入試小委員会委員
- 経済経営系共通雑誌・図書担当係

[地域連携等]

- 日本科学者会議山形支部人文班常任幹事（会計担当）
- 山形大学人文学部公開講座「嵐の中の日本企業—再生への道標—」の2回目「いま求められる日本人の働き方・働かせ方」2010年10月19日
- 『若者リアル—支援者のための若者入門ブックガイド』（編集・発行ぷらっとほーむ，2011年3月31日発行）のヒアリング調査協力，2010年11月12日
- 北海道苫小牧東高等学校への出張講義，2010年12月9日

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

これまでの研究を単著にまとめることができた。教育活動では、ゼミ生が増えたことにより、合同ゼミや合宿を行うことができた。大学院の授業を初めて担当した。

学部国際交流委員会委員として10月23日～28日にドイツに出張し、協定を結ぶためにデュイスブルクエッセン大学とオスナブルク応用科学大学を視察した。

中島 宏

(1) 研究成果

[論文]

- 「『共和国の拒否』—フランスにおけるブルカ着用禁止の試み—」一橋法学第9巻3号803～819頁（2010年11月）

[判例評釈]

- 「公の場における宗教的着衣の規制—欧州人権裁判所2010年2月23日アフメト・アルスラン判決—」山形大学法政論叢49号103～120頁（2010年10月）

[書評]

- 一橋大学大学院書評会「ルネ・レモン『政教分離を問い直す』」ディスカッサント（2010年7月）
- 井口秀作・大藤紀子・中島宏「2010年学界回顧・憲法」法律時報82巻13号6～23頁（2010年12月）

(2) 教育、地域連携等の活動

[教育]

- 専門科目：憲法Ⅱ，憲法Ⅲ，憲法演習Ⅰ
- 教養科目：日本国憲法，スタートアップセミナー

[地域連携]

- 山形市個人情報保護制度運営審議会委員，天童市情報公開・個人情報保護審査会委員
- 出前講義：山形西高校（6月），新潟三条高校（12月）
- 研究室訪問：新庄北高校（8月）

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では，フランスのブルカ規制に関する論文等を公表しつつ，書評会への参加や学界回顧を執筆する機会に恵まれた。教育面では，スタートアップセミナーの準備に四苦八苦しつつ，二回目の担当となる憲法Ⅱ・Ⅲの講義に出来るだけ最新の知見を盛り込む努力をした。また，学問の自由・大学の自治に関して考えさせられた年度であった。スタートアップセミナーを担当した学生が，震災により亡くなったことが残念でならない。

行方 久生

(1) 研究成果

1) 著作

- ①共編著 『『地域主権』と国家・自治体の再編』（渡名喜庸安・行方久生・晴山一穂編，2010年10月，日本評論社），第7章「道州制と税財政の再編」を担当
- ②共著『脱日米同盟と自治体・住民—憲法・安保・基地・沖縄』（2010年10月，大月書店），「日米同盟の争点化と戦略的ビジョン・オルタナティブ」「非核『神戸方式』と日米安保」執筆の他，渡辺治，孫崎享，新原昭治，稲嶺進氏との対談を担当
- ③共著『公共事業再生—分権時代の国土保全・建設産業政策』（永山利和編著，2010年8月，自治体研究社），第3章「地域・自治体の『自立』にむけた行財政改革と公共事業の財政問題」（P133～P172）を担当
- ④共著『山形県の社会経済・2010年』（特集：吉村県政2年の検証），第7章「財政からみた山形県の姿と行財政運営の課題」（P138～153）を担当

2) 論文等

- ①「総選挙の結果と今後の地方自治の課題—どうなる民主党政権の地方分権改革」（『とちぎの地域と自治』2010年3・4月号，2010年4月1日，とちぎ地域・自治研究所）両号ともP3～P15所収
- ②シンポジウム報告「安保改定50年『日米同盟の変遷と基地・地方自治・住民生活』（『自治と分権』2010年7月，P4～P40
- ③新原昭治氏と対談：『『密約』と日米同盟の構造的本質』（『自治と分権』2010年7月号）
- ④「『『地域主権』論と税財政改革をどうみるか』（『自治と分権』2010年10月）P50～P59
- ⑤「『『地域主権』下の税制改革論と予算編成』（『自治と分権』2010年10月）P71～P81
- ⑥「一括交付金制度の『可能性』—民主党の税財政制度改革論の一断面』（『自治と分権』2011年1月）P100～P110

3) 書評等

- ①頼高英雄蔵市長：インタビュー（『自治と分権』2010年4月号）P4～17

- ②書評 (インタビュー) 平山洋介『住宅政策のどこが問題か<持家政策>の次を展望する』光文社新書, 『自治と分権』2010年4月号, P82~96
- ③稲嶺進名護市長: インタビュー (『自治と分権』2010年7月号) P4~P18
- ④書評 (インタビュー) 孫崎享『日米同盟の正体—迷走する安全保障』講談社現代新書, 『自治と分権』2010年7月号, P80~P94
- ⑤書評: 渡辺治・二宮厚美・岡田知弘・後藤道夫『新自由主義か新福祉国家か—民主党政権下の日本の行方』(『季論21』2010年夏号)
- ⑥書評 (インタビュー) 吉田徹『二大政党制批判論』光文社新書, 『自治と分権』2010年10月, P82~P98
- ⑦書評 (インタビュー) 屋良朝博『砂上の同盟—米軍再編が明かすウソ』(沖縄タイムス社), 『自治と分権』2011年1月, P89~P99

4) 学会・研究会報告等

- ①「地域主権論と大都市政策・道州制」2010年8月, 大都市制度研究会
- ②「大都市制度論の今日的位相—『都市州』にみる大都市」2010年9月, 大都市制度研究会
- ③「地域主権論と道州制を考える—国家・自治体再編論の『旋回』」, 2010年12月, 地方分権研究会
- ④「第3の構造改革としてのTPPへの参加」, 2011年2月, 山形県農協等とのシンポジウム

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ①「公務員制度論」(基盤教育院, 前・後期)
- ②「地方財政論」(学部, 前・後期)
- ③「自治体論」(学部, 後期)
- ④「地方財政論演習」(学部)
を担当
- ①上山清掃工場をめぐる問題 (山形テレビ)
- ②同上 (朝日新聞)
- ③仙山交流問題 (朝日新聞, 東北版)
- ④住民・市民団体の学習会やシンポジウム等での講演 (約40回)
- ⑤人文学部・社会連携促進部会の担当として, 学生ボランティア活動を支援。
- ⑥その他, 中国・韓国の労働団体, 市民団体と平和交流の取組みを行なった。

(3) 平成22年度研究・教育活動に関するコメント

本格的に山形県の財政問題について研究を始め, 大都市の財政問題と平行して研究を行なった。今後はこれらの成果をまとめると同時に, 財政規律の視点から予算・決算制度の分析を行なう予定である。教育問題では, 学生の就職や将来展望に関し様々なサポートを行なったが, それなりの成果をあげたと認識をしている。

西岡 正樹

(1) 研究成果

〔判例評釈〕

- 「正当防衛に当たる暴行及びこれと時間的、場所的に連続して行われた暴行について、両暴行を全体的に考察して一個の過剰防衛の成立を認めることはできないとされた事例（最高裁平成20年6月25日第1小法廷決定・刑集62巻6号1859頁）」法学74巻2号（2010年）143頁以下。

(2) 教育・地域連携等の活動

〔教育〕

(1) 担当授業科目 教養教育：刑法の基礎

専門教育：刑事法基礎，総合講座Ⅱ（法律），刑法Ⅰ，刑法演習Ⅱ

(2) 非常勤 放送大学非常勤講師「市民社会と刑事法」担当（2010年10月）

〔地域連携等〕出張講義 青森県立八戸東高等学校（2010年8月）

取材協力 山形新聞（2011年3月）

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

平成22年度から山形大学人文学部に赴任し，今年度は授業準備等に多大の時間を費やすこととなったが，諸先生方の協力のもとで教育活動に従事することができた。研究活動としては，今般取り組んでいる累犯加重規定に関する研究を継続して行った。

西平 直史

(1) 研究成果

西平：サプライチェーンに対して構成したサーボ系の解釈とその応用，山形大学大学院社会文化システム研究科紀要，Vol. 7, pp. 105 - 109 (2010)

(2) 教育・地域連携等の活動

• 教育

学部 経営システム，応用情報処理，情報・システム論演習

基盤 情報処理

大学院 経営システム特論

• 地域連携

「山形仙台圏交流研究会」

蔵王温泉外国人宿泊統計の数表作成

公開講座（学内，東根市）

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

教育面では学部に加えて大学院生の研究指導を行った。

研究面では従来から進めているサプライチェーンをむだ時間システムとして解析する研究の新たな成果を公表した。

野田 英雄

(1) 研究成果

[査読つき論文]

1. Kyo, K. and H. Noda, "A New Method for Estimating Models of Seasonal Adjustment with AR Component," *Information: An International Interdisciplinary Journal*, 14 (1), January 2011 (in Japanese).
2. 野田英雄・姜興起 "Bayesian Analysis of the Technical Change in Japan," 『経済政策ジャーナル』第7巻, 第2号, pp. 2 - 5, 2010年6月.
3. Noda, H. and K. Kyo, "Statistical Analysis of the Dynamic Structure of China's Economic Sectors Based on Bayesian Modeling," *Information: An International Interdisciplinary Journal*, 13 (3B), pp.923 - 939, May 2010.

[ディスカッション・ペーパー]

1. Noda, H., "The Inhibitory Effect of Population Ageing on Technical Progress," Yamagata University FLSS Discussion Paper Series, No.2010 - E02, August 2010.

[国際会議における研究報告]

1. Kyo, K. and H. Noda, "A New Algorithm for Estimating the Parameters in Seasonal Adjustment Models with Cyclical Component," Fifth International Conference on Innovative Computing, Information and Control, December 2010, Xi'an Hotel, China.
2. Noda, H., "Duration of Patent Protection and Optimal R&D Intensity," 9th International Conference of the Japan Economic Policy Association, November 2010, Waseda University, Japan.
3. Noda, H. and K. Kyo, "Bayesian Analysis of the Technical Change Based on CES Production Functions," The 2nd European Asian Economics, Finance, Econometrics and Accounting Conference, September 2010, Park Plaza Science Beijing Hotel, China.

[国内学会における研究報告]

1. 姜興起・野田英雄 「AR成分付き季節調整モデルのパラメータ推定について」2010年度統計関連学会連合大会, 2010年9月, 早稲田大学.
2. 野田英雄・姜興起 「経済時系列における循環変動の推定法の提案」日本応用経済学会2010年度春季大会, 2010年6月, 西南学院大学.
3. 野田英雄 "Product Development Performance in an Aging Society," 日本経済政策学会第67回 (2010年度) 全国大会, 2010年5月, 京都産業大学.

(2) 教育, 地域連携等の活動

[学内担当講義]

マクロ経済学, 応用マクロ経済学, マクロ経済学演習, 総合講座Ⅲ, 経済学の思考法入門, 景気と経済成長

[出張講義]

講義題目「経営の経済学入門」, 秋田県立本荘高等学校 (2010年7月)

〔地域連携活動〕

山形県経済動向研究会メンバー，山形・仙台圏交流研究会メンバー

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については，季節調整モデル推定の新規手法の開発，動的経済構造のベイズ分析，人口動態のマクロ動学分析等に取り組んだ。また，共立出版からの依頼により，著書『経済データ分析』を執筆中である。

教育活動については，上記科目の講義・演習に従事した。

藤田 稔

(1) 研究成果

「通信カラオケ機器の事業者による取引妨害 ―第一興商事件審判審決―」ジュリスト1398号（平成21年度重要判例解説）284 - 286頁（2010年4月）

「安売り業者の排除と取引拒絶」経済法判例・審決百選（別冊ジュリスト199号）110 - 111頁（2010年4月）

「2009 判例回顧と展望 経済法」法律時報第82巻6号（5月臨時増刊号）228 - 236頁（2010年5月）

「入札談合に課徴金納付を命じた審決が実質的証拠がないとして取り消された事例」速報判例解説第7号 277 - 280頁（2010年9月）

「モディファイヤー価格協定事件審判審決の検討」NBL 941号 34 - 39頁（2010年11月）

(2) 教育，地域連携等の活動

「経済法1」「経済法2」「経済法演習」「法的なものの考え方と知的財産権（法学）」「スタートアップセミナー」「社会科の教材研究B」と，「総合講座1（公共政策）」の1コマを担当。（その他，東北学院大学で，非常勤講師を務めた。）

山形労働局で個別労働紛争調整委員として，労働紛争の解決のあっせんを行った。

独占禁止政策協力委員として，独占禁止政策のあり方について，公正取引委員会に対して，意見を述べた。

山形県弁護士会綱紀委員会委員として，弁護士倫理の維持に協力した。

日本経済法学会理事として，学会の運営に従事した。

東北経済法研究会で座長として研究を行った。

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

判例研究を通じて独占禁止法の法運用に関与した。教育面では「スタートアップセミナー」に関して，FDセミナーで報告を行った。

伏見 和史

(1) 研究成果

- 著書 (共著) 『やさしい法律情報の調べ方・引用の仕方』 2010年 文眞堂
- 国際商取引学会研究報告へのコメント「運送書類と運送品—新しい国際海上物品運送条約(ロッテルダム・ルールズ)の規律」国際商取引学会年報 2010年第12号

(2) 教育・地域連携等の活動

* 下記の授業を受け持ち担当した

- 「企業活動と法律」(全学1年生対象)
- 「法的考え方入門」(全学1年生対象)
- 「スタートアップセミナー」(人文学部法経政策学科1年生対象)
- 「国際取引法」(人文学部法経政策学科3・4年生対象)
- 「国際取引法演習」(人文学部法経政策学科3・4年生対象)
- 「国際契約論」(工学部大学院理工学研究科MOT院生対象)
- 「国際取引法特論」(社会システム研究科院生対象)
- 「国際取引法特別演習」(社会システム研究科院生対象)

* 地域連携のための活動は下記の通りである

- 1) NPO法人「プロネット」の会員として、弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、土地家屋調査士等と共に山形県において経済活動に携わる人たちへの助言
- 2) 「ジェットロ山形」, 「ジェットロ埼玉」, 「ジェットロ岩手」の会員企業のために国際ビジネスに関する注意点に関してのセミナーや個別アドバイス
- 3) 山形県「入札監視委員会」委員として県の入札案件に関してのチェック機能
- 4) 山形県「知的財産権管理審査委員会」委員長として県の知的財産権の保有、維持、管理に関してのチェック機能
- 5) 山形地方方法務局「評価委員会」委員として登記簿等の公開に係る事務への助言

* 人文学部進路指導委員として学生のインターンシップ研修に当たっての助言・指導を行い、また就職支援活動の一環として民間企業を多数訪問して山形大学学生の特徴を紹介

(3) 平成22年度研究・教育活動に関するコメント

山形大生の進路傾向は地元志向が強いことである。一方、経済環境は益々グローバル化が進み、地方においては少子高齢化、産業の空洞化が加速されつつある。よって、学生へのアプローチでは、地域をしっかりと見据える「蟻の眼」と世界全体を見渡す「鳥の眼」とをもって勉強し、生活することの必要性・重要性を語っていきたい。

洪 慈乙

(1) 研究成果

- 「新しい財務諸表の制度化から見る複式簿記システム」,
『山形大学人文学部研究年報』第8号, 平成23年3月, pp. 161 - 177。

(2) 教育、地域連携等の活動

学部担当授業

- ・専門科目：会計学，財務会計，会計学演習，基礎演習
- ・基盤教育：現代社会と企業会計（経済学）

大学院授業

- ・比較会計学特論，比較会計学特別演習，企業経営特別研究

地域連携

- ・山形仙台圏交流研究会およびまちづくり研究会への参加

松本 邦彦

(1) (平成 22 年度の) 研究成果

- ・「安達峰一郎について：満州事変と国際連盟，そして常設国際司法裁判所」『山形学研究 8：山形の魅力再発見パート 8』（山形大学都市・地域学研究所，2011 年 3 月）003-010 頁
- ・2009 年 10 月の山辺町での公開講座の内容を『山形学：山形の魅力再発見』（山形大学出版会，2011 年 2 月刊）に再録。

(2) 教育、地域連携等の活動

- ・山崎彰先生（人間文化学科）との共同研究プロジェクト「山形ドキュメンタリー映画祭ライブラリーの教育・研究利用のための調査」を続け，その成果の一部として，2010 年 11 月か 2011 年 1 月にかけて山形新聞にて「“日本の異邦人”を見る：山形国際ドキュメンタリー映画祭フィルムライブラリー」を計 8 回連載した。
- ・出張講義として，福島県立福島西高校「一日大学」に参加（6 月 16 日（水））し，「日本近代の外交と国際法」を講義。
- ・公開講座として，10 月 16 日に山辺町にて開催の「山形の魅力再発見」で講演。
- ・「安達峰一郎博士生家 & 記念対賢堂」ウェブサイトの「まめ知識 Part2」に，「安達峰一郎の似顔絵」を掲載（10 月）。
- ・後期開講の授業「日本政治論」にて，山辺町の遠藤直幸町長に講演いただく（1 月 18 日）。

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

ひきつづき日本の多文化政策と，戦間期日本外交の研究を進めています。前者については 2011 年秋開催の山形国際ドキュメンタリー映画祭にあわせて作品紹介冊子を刊行。後者については史料の収集・集積がまだまだ不足している段階です。

丸山 政己

(1) 研究成果

[学術論文]

- ・「国連安全保障理事会と自由権規約委員会の関係—狙い撃ち制裁に関わる Sayadi 事件を素材として— (1) 及び (2・完)」『山形大学法政論叢』第 48 号，2010 年，98 - 61 頁，第 49 号，

2010年, 100 - 60頁

〔報告書〕

- ・『国際連合総会手続規則の事例調査』（外務省委託研究報告書, 平和・安全保障研究所）（「投票」と「選挙手続」について分担執筆）, 2011年3月

〔口頭発表〕

- ・「国連安全保障理事会と立憲主義—近年の国際判例を主な素材として—」新潟国際法研究会, 2010年9月（於・新潟大学）
- ・「国連安全保障理事会における立憲主義の可能性と課題—国際テロリズムに関する実行を中心に—」国際法学会2010年度秋季大会, 2010年10月（於・神奈川大学）

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔教育〕

- ・担当科目: 国際法, 国際人権法, 国際法演習（専門教育）

スタートアップセミナー（基盤教育）

国際組織法特論, 国際組織法特別演習（大学院）

〔地域連携等〕

- ・新庄北高校: 研究室訪問受入れ（「普天間基地問題」（2010年8月）及び出張講義「国際連合とは何か」（2010年11月））

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

本年度は, これまでの研究を国際法学会で報告することができた。また, 外務省委託研究に参加し, 国連総会手続規則の法的意義という新たな問題関心を養うこともできた。教育面においては, 初のスタートアップセミナーが特に大変であったが, 実施するなかで自ら学ぶ点が多くあった。

安田 均

(1) 研究成果

A. 学会・研究会報告

- ・「生産的労働の意義と限界」SGCIME 研究合宿（八王子セミナーハウス, 10.08.09）
- ・「生産的労働概念の途絶と再興」第36回仙台経済研究会（東北大学人文系総合研究棟, 10.08.2）

B. 著書・論文

- ・「書評『現代経済の解説』」経済理論学会『季刊経済理論』第47巻第4号（2011. 1）

(2) 教育, 地域連携等の活動

A. 講義

経済原論（4単位）, 市場と組織（2単位）, 教養「教養セミナー（格差を考える）」（2単位）, 「市場経済」（2単位）, 学部共通科目「地域社会論」（2単位, 非常勤講師の紹介, 毎回のレポー

ト及び単位評価担当)

公務員講座(春休み, 講義1コマ, 論作文1コマ)で1コマ担当。

宮城学院女子大学「経済社会特論」(2単位)

B. ゼミ

経済原論演習(4単位)

C. 合同ゼミへの参加

- 東北学院大, 宮城学院女子大との「三大学合同ゼミ」

第18回「結婚格差」(山形大学, 7月17日), 第19回「ベーシックインカム」(宮城学院女子大学, 11月27日)

D. 地域連携

- 解説記事「経済指標と解説」(連合山形『春季生活闘争方針』, 2011年2月)
- 人文学部と山形県村山総合支庁との共同研究「山形・仙台圏交流研究会」に毎月参加。

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

現在, すべての講義科目においてパワーポイントを用いて講述した後, その配付資料およびまとめプリントによって復習するというスタイルをとっている。学生からはわかりやすいとの評価を得ているので, 今後も改良を重ねつつ続けたい。教養科目でも前期「教養セミナー」ではテキストを替えて以来, わかりやすいとの評価を得た。後期教養科目は前年度より入門的な内容に変えた。テーマとするタイトルを「賃金の経済学」から「市場経済」に変え, 最初の3, 4回のみ資本主義経済の基本的な仕組みを解説し, 残りは市場競争の軋轢を修復するセーフティ・ネット(年金, 医療保険, 雇用保険)の仕組みと現状の紹介に当てることにした。その際, 講述と新聞記事読み取りを交互に行ない, 現在, セーフティネットから漏れている人々が増え, 格差問題, 貧困問題が浮上している点に注意を喚起した。専門科目, 教養科目のすべてにおいてオンライン上の修学支援システム Blackboard を用いた。主な利用形態は講義資料のアップロード, オンラインテスト, 成績の逐次通知(毎回のオンラインテスト得点, 期末試験の成績, 単位評価)である。オンラインテストの利用に伴い, 単位評価における配点を, 講義テーマ毎の, 択一式復習テスト5-6割と論述式の期末試験4-5割に変えた。つまり, 専門知識を踏まえた論述式答案の作成に対して基本的な知識の習得の比重を上げ, 日常の学習を重視するようにした。Blackboardによる成績の逐次通知は好評なので今後も続けたい。

年2回開催の合同ゼミは同じ経済学でも専攻や関心の異なる学生と交流する貴重な機会なので今後とも参加したい。特に主催校となった場合には, 専攻の異なる学生が議論に参加しやすいようなテーマの解説や論点設定はどのようなものか, ゼミ生が自分たちの関心を検討し直す良い機会でもある。

学外団体から要請される経済指標等の解説記事の執筆, あるいは共同調査への参加は研究の間口を広げてくれるので, 時間の許す限り引受けたい。

山口 昌樹

(1) 研究成果

著書

- ・中東欧諸国の銀行部門—外国銀行の進出と金融危機の波及」田中素香編著『世界経済・金融危機とヨーロッパ』勁草書房, 第4章所収, 2010年

論文

- ・「中国銀行業の対外開放—現地法人形態での参入の評価」『中国経済研究』, 中国経済学会, 第7巻第1号, pp. 1 - 15, 2010年

資料紹介

- ・「アジアの銀行による金融 FDI—スーパーリージョナルバンクの形成—」『山形大学紀要』(社会科学編) 第41巻1号, 2010年

翻訳

- ・ポール・デ・グラウエ著, 「共通通貨の費用」, 『経済学論纂』, 第51巻5・6合併号, pp.289 - 306, 中央大学経済学研究会, 2011年

研究会報告

- ・「中東欧諸国はなぜ金融危機に陥らなかったか?」中央大学経済研究所, 公開研究会, 2011年3月7日, 中央大学多摩キャンパス

報告書

- ・「結城豊太郎と中小企業金融」『山形学研究8』山形大学都市・地域学研究所, pp.14 - 17

(2) 教育, 地域貢献等の活動

教育

- ・担当授業: スタートアップセミナー, 金融論, 国際金融論, 証券経済論, 国際金融論演習, 国際金融論特論 I, 国際経済法務特別研究 I
- ・基盤教育ワークショップ/パネリスト (2010年8月)
- ・実践キャリア教育学/講師 (2010年8月)

地域貢献

- ・放送大学面接授業「国際金融の読み方」(2010年5月)
- ・都市・地域学研究所公開講座/講師「結城豊太郎について」(2010年10月)

(3) 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

腰を据えて研究に打ち込むことができた。人文学部の教職員の方々に感謝したい。

「山形大学人文学部研究年報」投稿規程

1 投稿資格

「山形大学人文学部研究年報」に投稿の資格を有するのは、以下の者とする。

- (1) 山形大学人文学部の教員（教授、准教授、講師、助教、外国人教師）
- (2) 山形大学大学院社会文化システム研究科学生（指導教員の推薦ある者）

また、

- (3) 本学部教員以外の者との共同研究についても、応募を認めることがある。
- (4) 山形大学人文学部もしくは山形大学大学院社会文化システム研究科の主催で開催された講演会の原稿も掲載可とするが、原稿依頼および原稿のとりまとめについては当該の講演会を担当した本学教員の責任においておこなう。

2 原稿の種類

- (1) 原稿の種類は「論文」「研究ノート」「資料紹介」「翻訳」「判例評釈」「書評」「講演」その他学術研究に資すると判断されるものとする。
- (2) これら以外に、本学部教員の研究活動に関する報告等を掲載する。

3 原稿枚数

- (1) 原稿は、各号原則として一人一編までとするが、2 に定める分類項目を異にする場合には複数掲載を認める場合がある。
- (2) 「論文」「研究ノート」「資料紹介」「翻訳」「講演」は、原則として400 字詰め原稿用紙に換算して100 枚以内とする。
- (3) 「判例評釈」「書評」については、原則として400 字詰め原稿用紙に換算して30 枚以内とする。

4 書式

刷り上がりの版型はB5 版とする。なお、以下に記載のない書式の詳細については、山形大学紀要の書式に準ずるものとする。

- (1) 原稿は、縦書きもしくは横書きとする。縦書きの場合は二段組みとする。
- (2) 横書きの場合は裏表紙から始める。
- (3) 外国語論文原稿の投稿も認める。
- (4) 原稿は原則としてワープロで作成し、使用したワープロ・ソフト名を明記した電子ファイル（フロッピー・ディスクなど）とプリントアウトしたもの2 部（1 部は所属・氏名を記載しない）を提出する。
- (5) 日本語（外国語）の場合は外国語（日本語）のレジユメを付ける。その枚数も上記の原稿

枚数に含める。投稿者は、当該言語ネイティブまたは外国語教育担当教員によるチェックを受けたうえで、外国語レジュメを編集委員会に提出するものとする。ただし、当該言語ネイティブまたは外国語担当教員に依頼することが困難な場合には、英語によるレジュメに限り、編集委員会が仲介するものとする。

5 原稿掲載の可否の決定および査読

原稿掲載の可否は、当該分野の専門家の査読を経て、編集委員会が決定する。

6 校正

- (1) 校正は執筆者の責任でおこなう。
- (2) 校正時における大幅な訂正は認めない。

7 抜刷

- (1) 抜刷を必要とする者は、投稿申し込み時に申告する。
- (2) 抜刷の作成費用は、制限部数を超過した分について執筆者の負担とする。

8 図版等

図版、図表、グラフなど印刷に特別の費用を要するものについては、執筆者の負担とする場合もある。

9 原稿提出期日

原稿提出期限は11月末とする。

10 原稿提出先

原稿は、編集委員に提出する。

11 著作権利用の許諾

論文を投稿する者は、山形大学人文学部に対し、当該論文に関する著作権の利用につき許諾するものとする。

12 論文等の電子化及びコンピュータ・ネットワーク上での公開

- (1) 掲載された論文等は、原則として電子化し、人文学部ホームページ等を通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開する。
- (2) ただし、執筆者が前項に規定する電子化・公開を希望しない特別の理由を有する場合は、当該論文の電子化・公開を拒否することができる。その場合は原稿提出時に申し出る。